

一幼児の遊び・ 児童の学び一



ジョイントブック



幼児教育



小学校教育

※この「一幼児の遊び・児童の学びージョイントブック」は、平成29年度滋賀県総合教育センター「幼小連携に関する研究」において作成しました。



幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針(平成29年3月公示、以下、幼稚園教育要領等という。)、小学校学習指導要領(平成29年3月公示)では、育みたい資質・能力を「知識及び技能(の基礎)」、「思考力、判断力、表現力等(の基礎)」、「学びに向かう力、人間性等」(※()内は幼稚園教育要領等)の三つの柱で明確化されました。また、幼稚園教育要領等においては、健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域のねらいおよび内容に基づいた具体的な姿である、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(幼児の幼稚園等修了時の具体的な姿)の10項目が示されました。さらに、小学校学習指導要領においては、幼児教育の学びの成果が小学校と共有されるよう工夫・改善を行うことで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫することも示されました。つまり、学校段階等間の円滑な接続を行うことで、三つの資質・能力を確かに育むことが求められています。

また、幼稚園教育要領等総則においては、言語に関する能力の発達と思考力等の発達に関連していることを踏まえ、園生活全体を通して、幼児の発達を踏まえた言語環境を整え、言語活動の充実を図ることが求められています。小学校学習指導要領総則においては、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成することが重要であると示されています。これらのことから、言葉による伝え合いを軸とした、主体的・対話的で深い学びの視点を生かした保育・教育を充実させるとともに、幼児期の学びを児童期の学びにつなぐ幼小連携(本研究で述べる幼小連携とは、幼稚園、認定こども園、保育所における教育と小学校教育との連携や接続を指す。)がますます重要になると考えました。

そこで、子どもの学びをつなぐために、連携から接続への四つの「語る」と、言葉による伝え合いを軸とした、主体的・対話的で深い学びの視点を生かした保育・教育における、子どもの学びの姿とその手立てを「一幼児の遊び・児童の学び—ジョイントブック」にまとめました。幼児教育と小学校教育の円滑な接続の取組を進める際に、どうぞご活用ください。



「一幼児の遊び・児童の学び—ジョイントブック」目次

はじめに 「一幼児の遊び・児童の学び—ジョイントブック」の見方と活用方法

第1章 幼小連携ってどうして大切なの？

1 小学校生活は、ゼロからのスタートでしょうか？

- (1) 幼児教育と小学校教育の段差 . . . 1
- (2) 学校段階等間を貫く育みたい資質・能力 . . . 2
- (3) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 . . . 3

第2章 さあ、幼小連携を始めよう！

- 1 連携から接続への四つの「語る」 . . . 5
- 2 目指す子どもの姿を語り、カリキュラムを語りましょう！
 - (1) アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム . . . 6
 - (2) 幼小接続期カリキュラム作成の実際の姿 . . . 7
 - (3) 幼小接続期カリキュラム事例1 . . . 9
 - (4) 幼小接続期カリキュラム事例2 . . . 11
- 3 保育・教育を充実させ、目指す子どもの姿に迫りましょう！
 - (1) 校園での共通の取組を設定したA小学校区 . . . 13
 - (2) 校園の取組や学びの姿を知り、そのよさを取り入れたB小学校区 . 15
- 4 カリキュラムをより実行性のあるものにするために語りましょう！
 - (1) 連携から接続への発展の過程 . . . 17
 - (2) 事後検討を通してのカリキュラムの更新 . . . 17

第3章 実践事例

- 1 主体的・対話的で深い学びの視点を生かして目指す子どもの姿に迫りましょう！ . . . 19
- 2 詳しく紹介します！ 主体的・対話的で深い学びの姿
 - (1) 5歳児Ⅱ期（6月～8月）1・2 . . . 21
 - (2) 5歳児Ⅲ期（9月～10月）1・2 . . . 25
 - (3) 第1学年実践事例1・2 . . . 29
- 3 もっと知りたい！ 実践のヒント集
 - (1) その1「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」編 . . . 33
 - (2) その2 子どもたちの主体的な学びのサイクル編 . . . 33
 - (3) 自然との関わり・生命尊重 . . . 35
 - (4) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 . . . 37
 - (5) 道徳性・規範意識の芽生え . . . 39
 - (6) 思考力の芽生え . . . 41
 - (7) 幼児の主体的な学びのサイクル例 . . . 43

資料編

- 1 もっと知りたい！
「一幼児の遊び・児童の学び—ジョイントブック」
- 2 幼小連携カリキュラム作成のための質問紙例(教職員向け)
- 3 5歳児 保育指導案1・2

～「幼小連携に
関する研究」
によせて～
～資料一覧～
(参考文献と資料)

はじめに

「一幼児の遊び・児童の学びー ジョイントブック」の見方と活用方法

1 誰に？ 何のために？

「一幼児の遊び・児童の学びー ジョイントブック」は、
どういう趣旨で作成されたの？



幼児教育と小学校
教育の両方の実践
に、生かすことが
できるものを目指
しています。



2 どの章からも、目的に合わせて活用していただけます！



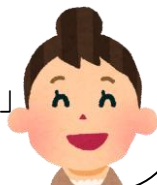
3章構成でまとめています。
知りたいところから読むことができます。

第1章

幼小連携ってどうして大切なの？

「そもそも幼小連携って分からないの・・・。
国や県の考えを知りたい！
そんな私は、

1章から！」



第2章

さあ、幼小連携を始めよう！

「幼小接続期カリキュラムを、今年作成する予定なんだけど・・・。
作成の手がかりを知りたい！
そんな私は、

2章から！」



第3章

実践事例

「幼小接続期カリキュラムはあるけれど、
保育・教育の具体的な取組を知りたい！
そんな私は、

3章から！」



3 見開き1ページでつながりを示しました！



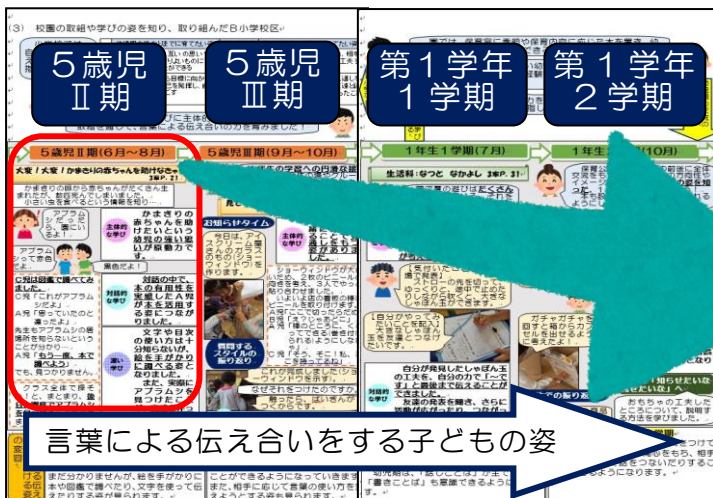
見開き1ページで示している箇所があります！
 幼児教育と小学校教育における子どもの学びの姿や保育・
 教育のつながりを意識してご覧ください。



4 言葉による伝え合いを軸とした保育・教育を行い、目指す子どもの姿に迫りました！

第2章 ダイジェスト版

第3章 実践事例



詳しい実践事例を知りたい人は第3章をご覧ください。

第1章

幼小連携ってどうして大切なの？

(※本研究で述べる幼小連携とは、幼稚園、認定こども園、保育所における教育と小学校教育との連携や接続を指しています。)

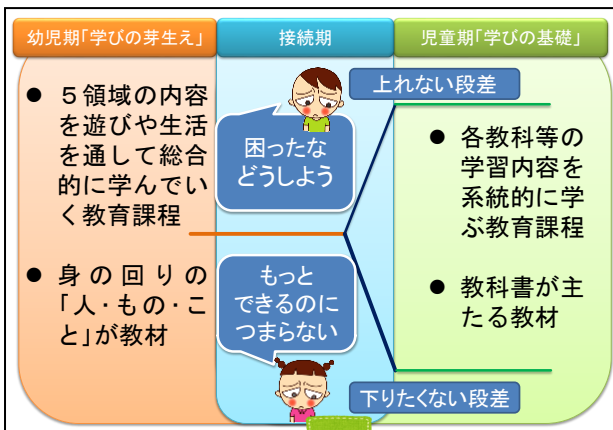
1 小学校生活は、ゼロからのスタートでしょうか？

(1) 幼児教育と小学校教育の段差



5歳児から小学校1年生にかけては、保育・教育の目標や内容、生活環境等が大きく変化するために、児童が小学校生活にスムーズに移行できない段差が生じることがあります。

ええっ！ それって、どんな段差？



上れない段差



園では自由に遊べたのに、勉強の仕方に慣れないよ…



下りたくない段差



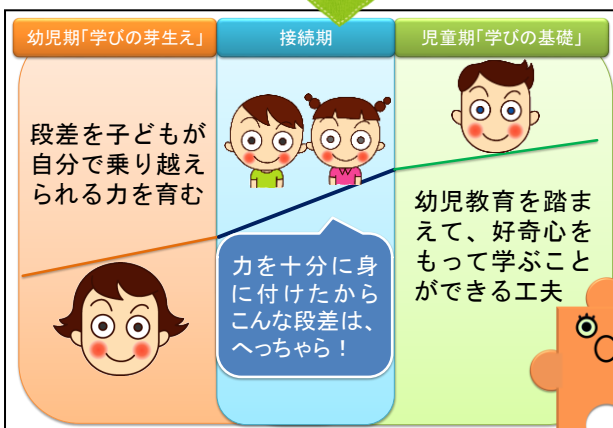
園では最年長だったのよ。みんなで話し合っ
て行動していたのに。



じゃあ、段差をなく
せばいいんだね。



できないことができるようになるということ、子どもは自信や喜びを感じるようになります。子どもが乗り越えることができる適度な段差は、成長のために必要です。



(平成23年度滋賀県学びの芽生え育み事業取組のまとめ、栃木県幼児教育センター学びをつなぐ幼・保・小連携をもとに作成)

幼児教育では、段差を子どもが自分で乗り越えられる力を育み、小学校教育では、幼児教育を踏まえて、好奇心をもって学ぶことができる工夫をすることが大切です。



(2) 学校段階等間を貫く育みたい資質・能力

平成29年3月に公示された「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」「小学校学習指導要領」においては、育みたい資質・能力を「知識及び技能(の基礎)」、「思考力、判断力、表現力等(の基礎)」、「学びに向かう力、人間性等」(※)内は幼稚園教育要領等)の三つの柱で明確化されました。



小学校は、全ての教科等の目標や内容を通して資質・能力を育みます。



幼児教育における資質・能力は、健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域のねらいおよび内容を通して、総合的に学んでいく活動全体で育まれていきます。

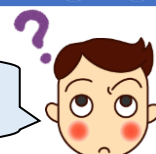
幼児教育において育みたい資質・能力

- (1) **「知識及び技能の基礎」**
豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする
- (2) **「思考力、判断力、表現力等の基礎」**
気付いたことや、できるようになったことを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする
- (3) **「学びに向かう力、人間性等」**
心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする

子どもは幼児期にたっぴりと学んでできています。
つまり、小学校生活は、ゼロからのスタートではありません。
資質・能力を育むために、学校段階等間の円滑な接続が求められています。






子どもたちは、具体的にどんなことができるようになって
いるの？



(3) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

幼稚園教育要領等(平成29年3月公示)においては、健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域を踏まえて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(幼児の幼稚園・認定こども園・保育所の修了時の具体的な姿)の10項目が示されました。

 幼児教育	 小学校教育
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、幼稚園教諭、保育教諭、保育士等が指導を行う際は適宜考慮すること	幼児教育の学びの成果が小学校と共有されるよう工夫・改善を行うことで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫すること

ポイント


「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

健康な心と体

園等における生活の中で、**充実感をもって自分のやりたいこと**に向かって**心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し**、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、**しなければならないことを自覚し**、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで**達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。**

協同性

友達と関わる中で、**互いの思いや考えなどを共有し**、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、**充実感をもってやり遂げるようになる。**

道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、**してよいことや悪いことが分かり**、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、**相手の立場に立って行動するようになる。**また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、**友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。**

社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、**自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。**また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、**公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。**

※網掛けは、平成29年3月に滋賀県教育委員会から出された「学びの基礎指導の手引き改訂版」に示されている箇所である。

思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切に作る気持ちをもって関わるようになる。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

なるほど！ これなら、具体的でわかりやすいね。
小学校でも引き続き、伸ばしていったらいいんだね。



この10の姿は到達目標ではありません。

まだ発達の途上にある姿であり、小学校教育で、引き続き、伸ばしていきます。

「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を幼児教育と小学校教育で共有することが、幼小の円滑な接続のカギとなります。



ポイント



第2章

さあ、幼小連携を始めよう！

1 連携から接続への四つの「語る」

連携とは

「同じ目的をもつ者が互いに連絡を取り、協力し合って物事を行うこと」

接続とは

「二つ以上のものがつながること。また、それらをつなぐこと」

「語る」をキーワードにしましょう！

1 目指す子どもの姿を語る



目指す子どもの姿を語ることで、目的が明確になり、互いの保育・教育を知るきっかけにもなります。

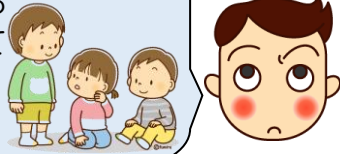
2 カリキュラムを語る

意図的、計画的な保育・教育につなげよう！



3 実践を振り返り語る

目指す子どもの姿に迫ることができているかな？



4 参観した子どもの姿から語る

互いの保育・教育を参観し、語りましょう！



幼児教育と小学校教育における教職員が集まり、保育・授業の場面における子どもの姿を基として語ることは、互いの保育・教育への理解につながります。

幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図るために、まず、双方の教職員が目指す子どもの姿を共有します。そして、教職員同士が連携を重ねることで、幼児教育と小学校教育の接続を図りましょう。



2 目指す子どもの姿を語り、カリキュラムを語りましょう！

(1) アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム

幼稚園、認定こども園、保育所での月ごとの教育・保育カリキュラムを「アプローチカリキュラム」、小学校で取り組む教育活動のカリキュラムを「スタートカリキュラム」と設定しました。

5歳児													小学校第1学年										
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
接続期																							
アプローチカリキュラム													スタートカリキュラム										

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は幼児期の終わりで切れるものではなく、5歳児から第1学年の間で重なり、次の段階に移行していきます。継続的に子どもの育ちと学びの姿を共有していきましょう。

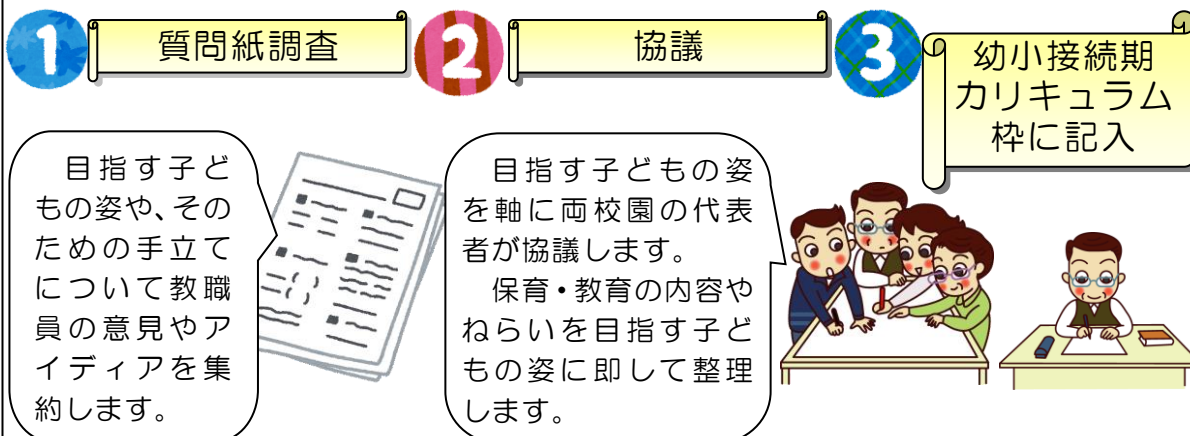
幼小接続期カリキュラムってなんだか難しそう。



幼小接続期カリキュラム作成には、自校園の教職員全員の意見を大切にして進める必要があります。質問紙と連動した幼小接続期カリキュラム枠を活用してはどうでしょうか？



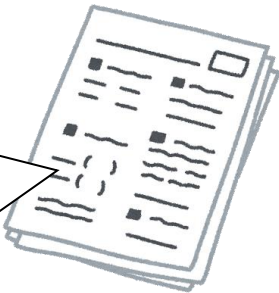
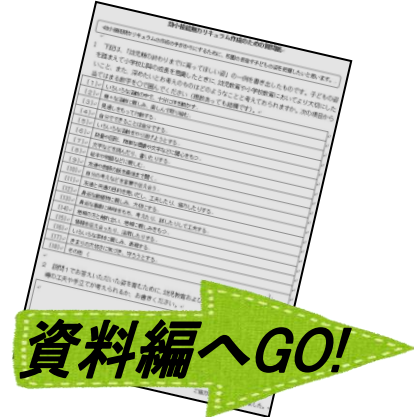
幼小接続期カリキュラム作成の流れ



(2) 幼小接続期カリキュラム作成の実際の姿

1 質問紙調査

目指す子どもの姿や、そのための手立てについて教職員の意見やアイデアを集約します。

2 協議【目指す子どもの姿について語る】

A 小学校区

遊びがどこで終わるか、次につなげるためにどのような手立てがあるかが難しい。

意欲や主体性、表現することによって弱さが見られる。もっと自由に表現してほしい。

楽しんで表現活動を行うと、「～したい！」がどんどん出てくる。表現と言葉は、密接に関連している。

人と人とのつながりを大切にし、コミュニケーションの素地を培いたい。

B 小学校区

運動遊びでは、自信の有無に左右されている。どんな手立てが必要なのか考えたい。


互いに伝え合う活動が難しい。校内研究でも進めている。

子どもが遊びや学びに没頭すると自然に伝え合いの場が生まれる。

【目指す子どもの姿のキーワード】
 「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」「協同性」「自立心」
【育ちを支える共通の取組】
 「導入(環境)の工夫」「振り返り」

【目指す子どもの姿のキーワード】
 「言葉による伝え合い」「協同性」

最初はキーワードだけでもOKです！



3

幼小接続期カリキュラム枠に記入

A

幼小接続期カリキュラム	
目指す子どもの姿	「幼児期の終わりまでに育てたい姿」 → 「第1学年の終わりまでに育てたい姿」
	共通の取組を育ちを支える

A 協議をもとに、目指す子どもの姿や、育ちを支える共通の取組を記入しましょう。

C

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
幼小連携事業											

B

時期	I期		II期			III期		IV期	
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ねらい									
5歳児カリキュラム									
内容									



C 互いの保育・教育を参観する日や、教職員同士が交流する日、幼児と児童が交流する日を位置付けましょう。

時期	V期			「幼児期の終わりまでに育てたい姿」	学期	1学期			
月	1月	2月	3月		月	4月	5月	6月	7月
ねらい					ねらい				
5歳児カリキュラム					第1学年スタート				
内容					生活科各教科 単元名				

学期	2学期				3学期			「第1学年の終わりまでに育てたい姿」
月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ねらい								
第1学年スタート								
生活科各教科 単元名								

B 目指す子どもの姿に関わる、5歳児のねらいおよび第1学年生活科のねらいを記入しましょう。

第2学年へ

最初は、まだまだ未完成でOK!
 幼児教育と小学校教育の内容とねらいを互いが共有し、日々の保育・教育を充実・工夫していきながら、加筆・修正をしていくことが大切です。
 例えば、幼児教育での取組を踏まえ、生活科を中心に、合科的・関連的な指導の工夫をしたことは、次年度以降の担任が参考にすることができます。



時期	V期			1学期			
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
ねらい 5歳児アプローチ カリキュラム	友達とイメージを共有し、動きや言葉、音、歌などで表現し演じて遊ぶ 友達の存在を認めながら協力して遊びや生活を進め、充実感を味わう 一人ひとりが自分らしさを大切にしながら、自信をもって主体的に行動する	友達とイメージを共有し、動きや言葉、音、歌などで表現する 友達と協力したり認め合ったりしながら遊びや生活を進める 一人ひとりが自分らしさを大切にしながら、自信をもって主体的に行動する	友達とイメージを共有し、動きや言葉、音、歌などで表現し演じて遊ぶ 友達の存在を認めながら協力して遊びや生活を進め、充実感を味わう 一人ひとりが自分らしさを大切にしながら、自信をもって主体的に行動する	〈生活科〉 学校生活に慣れ、安・学校生活を支えている人々や友達に関心をもて、遊びの工夫を友達と伝え合っている 〈生活科〉 学校生活に慣れ、楽しく学校生活を送ろうとしている 〈生活科〉 校舎探検で見つけたことを、友達と伝え合っている 夏に自然に関心を持ち、計画を立て、自然を利用して楽しむ 自分なりに考えたり、振り返りして、それを素直に表現している 植物の成長を絵や文で表現することができる 〈国語科〉 丁寧な言葉と普通の丁寧な言葉の違いについて、言葉との違いに気づき、自己紹介をし合うことができて話せる 〈国語科〉 丁寧な言葉と普通の丁寧な言葉の違いについて、言葉との違いに気づき、自己紹介をし合うことができて話せる	〈生活科〉 学校生活に慣れ、安・学校生活を支えている人々や友達に関心をもて、遊びの工夫を友達と伝え合っている 〈生活科〉 学校生活に慣れ、楽しく学校生活を送ろうとしている 〈生活科〉 校舎探検で見つけたことを、友達と伝え合っている 夏に自然に関心を持ち、計画を立て、自然を利用して楽しむ 自分なりに考えたり、振り返りして、それを素直に表現している 植物の成長を絵や文で表現することができる 〈国語科〉 丁寧な言葉と普通の丁寧な言葉の違いについて、言葉との違いに気づき、自己紹介をし合うことができて話せる 〈国語科〉 丁寧な言葉と普通の丁寧な言葉の違いについて、言葉との違いに気づき、自己紹介をし合うことができて話せる	〈生活科〉 学校生活に慣れ、安・学校生活を支えている人々や友達に関心をもて、遊びの工夫を友達と伝え合っている 〈生活科〉 学校生活に慣れ、楽しく学校生活を送ろうとしている 〈生活科〉 校舎探検で見つけたことを、友達と伝え合っている 夏に自然に関心を持ち、計画を立て、自然を利用して楽しむ 自分なりに考えたり、振り返りして、それを素直に表現している 植物の成長を絵や文で表現することができる 〈国語科〉 丁寧な言葉と普通の丁寧な言葉の違いについて、言葉との違いに気づき、自己紹介をし合うことができて話せる 〈国語科〉 丁寧な言葉と普通の丁寧な言葉の違いについて、言葉との違いに気づき、自己紹介をし合うことができて話せる	〈生活科〉 学校生活に慣れ、安・学校生活を支えている人々や友達に関心をもて、遊びの工夫を友達と伝え合っている 〈生活科〉 学校生活に慣れ、楽しく学校生活を送ろうとしている 〈生活科〉 校舎探検で見つけたことを、友達と伝え合っている 夏に自然に関心を持ち、計画を立て、自然を利用して楽しむ 自分なりに考えたり、振り返りして、それを素直に表現している 植物の成長を絵や文で表現することができる 〈国語科〉 丁寧な言葉と普通の丁寧な言葉の違いについて、言葉との違いに気づき、自己紹介をし合うことができて話せる 〈国語科〉 丁寧な言葉と普通の丁寧な言葉の違いについて、言葉との違いに気づき、自己紹介をし合うことができて話せる
	内容	・劇遊び、大縄遊び ・正月遊び、伝承遊びをする(ゆるたこ、こま、たこ、剣玉、お手玉、すごろくなど) ・劇遊びをする ・雪、氷などで遊ぶ ・版画をする ・卒園に向かい、作品集や文集をつくる	・劇遊びに必要なものをつくる ・4歳児に園全体の当番活動伝える	・劇遊びに必要なものをつくる ・4歳児に園全体の当番活動伝える	「すたあとぶつく」 「はきはきあいさつ」 「がっこうだいすき」 「きれいにさいいてね」 「なつだ あそぼう」	「すたあとぶつく」 「はきはきあいさつ」 「がっこうだいすき」 「きれいにさいいてね」 「なつだ あそぼう」	「すたあとぶつく」 「はきはきあいさつ」 「がっこうだいすき」 「きれいにさいいてね」 「なつだ あそぼう」

学期	2学期			3学期			第1学年の 終わりまでに 育てたい姿	
	9月	10月	11月	12月	1月	2月		3月
ねらい 第1学年スタート カリキュラム	生き物の様子を観察し、秋の自然を利用して、秋の自然物や、家の人にしてもらっていることを使って作ったおもちゃや遊び方について話し合える 交流し、気付くことが出来る 選んだ方法で表現することができる 〈国語科〉 観察して気づいたことや思ったことなど、文章に書きたい事柄を集めることができる	生き物の様子を観察し、秋の自然を利用して、秋の自然物や、家の人にしてもらっていることを使って作ったおもちゃや遊び方について話し合える 交流し、気付くことが出来る 選んだ方法で表現することができる 〈国語科〉 観察して気づいたことや思ったことなど、文章に書きたい事柄を集めることができる	生き物の様子を観察し、秋の自然を利用して、秋の自然物や、家の人にしてもらっていることを使って作ったおもちゃや遊び方について話し合える 交流し、気付くことが出来る 選んだ方法で表現することができる 〈国語科〉 観察して気づいたことや思ったことなど、文章に書きたい事柄を集めることができる	冬の自然に関心をもて、自分ができるようになつたことなどについて、冬の間を振り返り、最も心に残った、文章に書きたい思い出を決めている 〈国語科〉 一年間を振り返り、最も心に残った、文章に書きたい思い出を決めている	冬の自然に関心をもて、自分ができるようになつたことなどについて、冬の間を振り返り、最も心に残った、文章に書きたい思い出を決めている 〈国語科〉 一年間を振り返り、最も心に残った、文章に書きたい思い出を決めている	冬の自然に関心をもて、自分ができるようになつたことなどについて、冬の間を振り返り、最も心に残った、文章に書きたい思い出を決めている 〈国語科〉 一年間を振り返り、最も心に残った、文章に書きたい思い出を決めている	冬の自然に関心をもて、自分ができるようになつたことなどについて、冬の間を振り返り、最も心に残った、文章に書きたい思い出を決めている 〈国語科〉 一年間を振り返り、最も心に残った、文章に書きたい思い出を決めている	「第1学年の終わりまでに育てたい姿」 相手意識・目的意識をもって、伝え方や関わり方を工夫する 目的をもち、グループで協力しながら課題を解決する 課題に対して自分の考えをもち、計画を立て、見通しをもちながら学びを進める
	内容	「いきものとなかよし」 「たのしいあきいっぱい」 「つくるあそぼう」 「ふゆのたのしみ」 「もうすぐ2ねんせい」 「おもいでブックをつくろう」	「たのしいあきいっぱい」 「つくるあそぼう」 「ふゆのたのしみ」 「もうすぐ2ねんせい」 「おもいでブックをつくろう」	「たのしいあきいっぱい」 「つくるあそぼう」 「ふゆのたのしみ」 「もうすぐ2ねんせい」 「おもいでブックをつくろう」	「たのしいあきいっぱい」 「つくるあそぼう」 「ふゆのたのしみ」 「もうすぐ2ねんせい」 「おもいでブックをつくろう」	「たのしいあきいっぱい」 「つくるあそぼう」 「ふゆのたのしみ」 「もうすぐ2ねんせい」 「おもいでブックをつくろう」	「たのしいあきいっぱい」 「つくるあそぼう」 「ふゆのたのしみ」 「もうすぐ2ねんせい」 「おもいでブックをつくろう」	「たのしいあきいっぱい」 「つくるあそぼう」 「ふゆのたのしみ」 「もうすぐ2ねんせい」 「おもいでブックをつくろう」

第2学年へ



(4) 幼小接続期カリキュラム事例2

校園の取組や学びの姿を知り、目指す子どもの姿に迫りました。 P.15

幼小接続期カリキュラム													
B小学校区													
子ども の姿	「第1学年の終わりに育てたい姿」												
	共通の取組を支える												
目指す	「幼児期の終わりに育てたい姿」 目的に向かって、互いの思いやイメージを共有し、よりよいものにするために繰り返す												
の姿	友達と協力しながら目標に向かって取り組む中で、自己を発揮し、自信や意欲をもって過ごす 目的を達成するために、見通しをもち、試したり、調べたり、友達と話し合ったりすることで、分かったことをまとめる												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
幼小連携事業	「幼小接続期カリキュラム検討」1学期の保育・教育について	5-5交流(5歳児と第5学年児童との交流)	「2学期の保育・教育について」	小学校の招待レースへの参加	「こども園公開保育」(5-5交流給食)	1-5交流(5歳児と第1学年児童との交流)※秋祭り	「こども園公開保育」(5-5交流)	「こども園公開保育」(5-5交流)	「こども園公開保育」(5-5交流)	「こども園公開保育」(5-5交流)	「こども園公開保育」(5-5交流)	「こども園公開保育」(5-5交流)	
時期	I期			II期			III期			IV期			
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ねらい	自分の思いや感じたことなどを保育者や友達に言葉で伝えようとする 年長児になった喜びと自覚をもち、進んで園生活に取り組む	自分の思いや伝えたり、相手の思いを聞いていたりしながら友達と一緒にいろいろな遊びを楽しみ、進めようとする 遊びに必要な材料用具を、自分なりに選んだり、自分で遊ぼうとする 身近な自然に触れ、考えたり、試したりしながら遊びを楽しむ	自分の思いや伝えたり、相手の思いを聞いていたりしながら友達と一緒にいろいろな遊びを楽しみ、進めようとする 遊びに必要な材料用具を、自分なりに選んだり、自分で遊ぼうとする 身近な自然に触れ、考えたり、試したりしながら遊びを楽しむ	自分の思いや伝えたり、相手の思いを聞いていたりしながら友達と一緒にいろいろな遊びを楽しみ、進めようとする 遊びに必要な材料用具を、自分なりに選んだり、自分で遊ぼうとする 身近な自然に触れ、考えたり、試したりしながら遊びを楽しむ	自分の思いや伝えたり、相手の思いを聞いていたりしながら友達と一緒にいろいろな遊びを楽しみ、進めようとする 遊びに必要な材料用具を、自分なりに選んだり、自分で遊ぼうとする 身近な自然に触れ、考えたり、試したりしながら遊びを楽しむ	自分の思いや伝えたり、相手の思いを聞いていたりしながら友達と一緒にいろいろな遊びを楽しみ、進めようとする 遊びに必要な材料用具を、自分なりに選んだり、自分で遊ぼうとする 身近な自然に触れ、考えたり、試したりしながら遊びを楽しむ	自分の思いや伝えたり、相手の思いを聞いていたりしながら友達と一緒にいろいろな遊びを楽しみ、進めようとする 遊びに必要な材料用具を、自分なりに選んだり、自分で遊ぼうとする 身近な自然に触れ、考えたり、試したりしながら遊びを楽しむ	自分の思いや伝えたり、相手の思いを聞いていたりしながら友達と一緒にいろいろな遊びを楽しみ、進めようとする 遊びに必要な材料用具を、自分なりに選んだり、自分で遊ぼうとする 身近な自然に触れ、考えたり、試したりしながら遊びを楽しむ	自分の思いや伝えたり、相手の思いを聞いていたりしながら友達と一緒にいろいろな遊びを楽しみ、進めようとする 遊びに必要な材料用具を、自分なりに選んだり、自分で遊ぼうとする 身近な自然に触れ、考えたり、試したりしながら遊びを楽しむ	自分の思いや伝えたり、相手の思いを聞いていたりしながら友達と一緒にいろいろな遊びを楽しみ、進めようとする 遊びに必要な材料用具を、自分なりに選んだり、自分で遊ぼうとする 身近な自然に触れ、考えたり、試したりしながら遊びを楽しむ	自分の思いや伝えたり、相手の思いを聞いていたりしながら友達と一緒にいろいろな遊びを楽しみ、進めようとする 遊びに必要な材料用具を、自分なりに選んだり、自分で遊ぼうとする 身近な自然に触れ、考えたり、試したりしながら遊びを楽しむ	自分の思いや伝えたり、相手の思いを聞いていたりしながら友達と一緒にいろいろな遊びを楽しみ、進めようとする 遊びに必要な材料用具を、自分なりに選んだり、自分で遊ぼうとする 身近な自然に触れ、考えたり、試したりしながら遊びを楽しむ	
内容	ままごと、絵本 積み木、ブロック、絵本 身近な素材で制作 固定遊具、鬼ごっこ リズム運動、体操、マラソン キッズサッカー 転がしドッジボール パス、マーカ、のりや はさみなど(組立、冠制、塗り、折り、型、タンポ)	ままごと、ごっこ遊び 竹馬、縄遊び 巧技台、跳び箱、平均台 折り返しリレー、ドッジボール 絵の具(筆、手型、タンポ)	片栗粉粘土 ローラー遊び、土粘土 空き箱で制作(テープ外し) チャレンジカードに記入 いろいろな材料用具で絵を描く、土粘土 七夕飾り	片栗粉粘土 ローラー遊び、土粘土 空き箱で制作(テープ外し) チャレンジカードに記入 いろいろな材料用具で絵を描く、土粘土 七夕飾り	片栗粉粘土 ローラー遊び、土粘土 空き箱で制作(テープ外し) チャレンジカードに記入 いろいろな材料用具で絵を描く、土粘土 七夕飾り	片栗粉粘土 ローラー遊び、土粘土 空き箱で制作(テープ外し) チャレンジカードに記入 いろいろな材料用具で絵を描く、土粘土 七夕飾り	片栗粉粘土 ローラー遊び、土粘土 空き箱で制作(テープ外し) チャレンジカードに記入 いろいろな材料用具で絵を描く、土粘土 七夕飾り	片栗粉粘土 ローラー遊び、土粘土 空き箱で制作(テープ外し) チャレンジカードに記入 いろいろな材料用具で絵を描く、土粘土 七夕飾り	片栗粉粘土 ローラー遊び、土粘土 空き箱で制作(テープ外し) チャレンジカードに記入 いろいろな材料用具で絵を描く、土粘土 七夕飾り	片栗粉粘土 ローラー遊び、土粘土 空き箱で制作(テープ外し) チャレンジカードに記入 いろいろな材料用具で絵を描く、土粘土 七夕飾り	片栗粉粘土 ローラー遊び、土粘土 空き箱で制作(テープ外し) チャレンジカードに記入 いろいろな材料用具で絵を描く、土粘土 七夕飾り	片栗粉粘土 ローラー遊び、土粘土 空き箱で制作(テープ外し) チャレンジカードに記入 いろいろな材料用具で絵を描く、土粘土 七夕飾り	片栗粉粘土 ローラー遊び、土粘土 空き箱で制作(テープ外し) チャレンジカードに記入 いろいろな材料用具で絵を描く、土粘土 七夕飾り

※幼小接続期カリキュラム枠は滋賀県総合教育センターホームページよりダウンロードしてください。

目指す子どもの姿に迫った校園の取組のダイジェスト版はP.13～P.16で紹介しています。詳しい実践事例を知りたい人は第3巻へ！



時期		V期			1学期			
月	ねらい	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
5歳	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・就学に向け、友達と一緒に見通しや目標をもって、いろいろな活動に意欲的に取り組む ・共通の目的や課題に向かって、友達と一緒に力を合わせてやり遂げる喜びを味わう ・目的に向かって、互いの思いやイメージを共有し、よりよいものにするために練習合う 						
5歳	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・正月遊び、毛糸遊び ・今までにした遊び ・集団遊び ・マラソン(小学校グラウンド) ・記念制作 ・ひな人形作り ・作品鑑賞 ・作品鑑賞 ・水やり ・春の自然に触れて遊ぶ ・栽培活動の後始末 ・身体表現 ・水やり、収穫、精米 ・絵本に親しむ ・話をつくって遊ぶ 						
5歳	カリキュラム	<p>ねらい</p> <p>生活科 各教科</p> <p>単元名</p>						
1学期	「幼児期の終わりまでに育てたい姿」	<p>ねらい</p> <p>生活科 各教科</p> <p>単元名</p>						
1学期	「第1学年の終わりまでに育てたい姿」	<p>ねらい</p> <p>生活科 各教科</p> <p>単元名</p>						
2学期	「幼児期の終わりまでに育てたい姿」	<p>ねらい</p> <p>生活科 各教科</p> <p>単元名</p>						
2学期	「第1学年の終わりまでに育てたい姿」	<p>ねらい</p> <p>生活科 各教科</p> <p>単元名</p>						
3学期	「幼児期の終わりまでに育てたい姿」	<p>ねらい</p> <p>生活科 各教科</p> <p>単元名</p>						
3学期	「第1学年の終わりまでに育てたい姿」	<p>ねらい</p> <p>生活科 各教科</p> <p>単元名</p>						
4学期	「幼児期の終わりまでに育てたい姿」	<p>ねらい</p> <p>生活科 各教科</p> <p>単元名</p>						
4学期	「第1学年の終わりまでに育てたい姿」	<p>ねらい</p> <p>生活科 各教科</p> <p>単元名</p>						
5学期	「幼児期の終わりまでに育てたい姿」	<p>ねらい</p> <p>生活科 各教科</p> <p>単元名</p>						
5学期	「第1学年の終わりまでに育てたい姿」	<p>ねらい</p> <p>生活科 各教科</p> <p>単元名</p>						
6学期	「幼児期の終わりまでに育てたい姿」	<p>ねらい</p> <p>生活科 各教科</p> <p>単元名</p>						
6学期	「第1学年の終わりまでに育てたい姿」	<p>ねらい</p> <p>生活科 各教科</p> <p>単元名</p>						

第2学年へ



「第1学年の終わりまでに育てたい姿」

伝えたいという気持ちを持ち、相手や目的に即して、伝え方を工夫する

目的を達成するために、見通しをもち、試したり、調べたり、友達と話し合ったりすることによって、分かったことをまとめる

「第1学年の終わりまでに育てたい姿」

伝えたいという気持ちを持ち、相手や目的に即して、伝え方を工夫する

目的を達成するために、見通しをもち、試したり、調べたり、友達と話し合ったりすることによって、分かったことをまとめる

「第1学年の終わりまでに育てたい姿」

伝えたいという気持ちを持ち、相手や目的に即して、伝え方を工夫する

目的を達成するために、見通しをもち、試したり、調べたり、友達と話し合ったりすることによって、分かったことをまとめる

「第1学年の終わりまでに育てたい姿」

伝えたいという気持ちを持ち、相手や目的に即して、伝え方を工夫する

目的を達成するために、見通しをもち、試したり、調べたり、友達と話し合ったりすることによって、分かったことをまとめる

「第1学年の終わりまでに育てたい姿」

伝えたいという気持ちを持ち、相手や目的に即して、伝え方を工夫する

目的を達成するために、見通しをもち、試したり、調べたり、友達と話し合ったりすることによって、分かったことをまとめる

「第1学年の終わりまでに育てたい姿」

伝えたいという気持ちを持ち、相手や目的に即して、伝え方を工夫する

目的を達成するために、見通しをもち、試したり、調べたり、友達と話し合ったりすることによって、分かったことをまとめる

「第1学年の終わりまでに育てたい姿」

伝えたいという気持ちを持ち、相手や目的に即して、伝え方を工夫する

目的を達成するために、見通しをもち、試したり、調べたり、友達と話し合ったりすることによって、分かったことをまとめる

「第1学年の終わりまでに育てたい姿」

伝えたいという気持ちを持ち、相手や目的に即して、伝え方を工夫する

目的を達成するために、見通しをもち、試したり、調べたり、友達と話し合ったりすることによって、分かったことをまとめる

「第1学年の終わりまでに育てたい姿」

伝えたいという気持ちを持ち、相手や目的に即して、伝え方を工夫する

目的を達成するために、見通しをもち、試したり、調べたり、友達と話し合ったりすることによって、分かったことをまとめる

3 保育・教育を充実させ、目指す子どもの姿に迫りましょう！

(1) 校園での共通の取組を設定したA小学校区

1学期は、導入(環境)の工夫と振り返りを共通の取組としました。
2学期は、言葉による伝え合いの場や環境の工夫を行いました。



	幼児期の終わりまでに育てたい姿	キーワード	第1学年の終わりまでに育てたい姿
目指す子どもの姿	友達とイメージを共有し、動きや言葉、音、歌などで表現する	言葉による伝え合い豊かな感性と表現	相手意識・目的意識をもって、伝え方や関わり方などを工夫する
	友達と協力したり認め合ったりしながら遊びや生活を進める	協同性	目的をもち、グループで協力しながら課題を解決する
	一人ひとりが自分らしさを大切にしながら、自信をもって主体的に行動する	自立心	課題に対して自分の考えをもち、計画を立て、見通しをもちながら学びを進める

5歳児Ⅱ期(6月～8月)

第1学年1学期(7月)

きりん組のお店へようこそ！
(きりんのしっぽって、どんなしっぽ?) 3章P. 21

生活科: なつは ともだち 3章P. 29

3、4、5歳児の経験や幼児の育ちから活動やねらいを設定

導入(環境)の工夫

素敵なきりんを作ったけれど、首がぐらぐらだよ。



A児「ぼくたちが直すよ」
A児「テープを長くしよう」
みんな「やったあ！立った」

きりに足りないものはないかな。Fさんも一緒に考えてくれる？



A児「しっぽは、ふさふさしてる」
A児「毛糸がほしいな」
(F児がビニールひもを黒く塗って持ってくる)
A児「毛糸をセロテープで(ビニールひもにつけよう！)」
E児「きりんのしっぽってどのくらいの長さ？」
D児「(図鑑を見て)地面につかないくらいだよ」

主体的な学び
幼児が目的をもち、児童が学習の出口やめあてを設定したりしました。

対話的な学び
指導者が疑問を投げかけたり、他の幼児とつなげたりしました。また、児童自身が、解決したい課題を見いだすことで、話し合う姿となりました。



深い学び
図鑑には必要な情報があるということに幼児が気づき、活用する姿となりました。また、児童が、友達と考え、予想し試した結果、気づきが生まれ、全体の振り返りで共有することができました。

導入(環境)の工夫

遊びの名前をみんな決めて、計画を立てよう。



「パワフル水鉄砲バトル “倒してポイントゲット”」

【第2時】振り返り

ぎゅっと、強く握るとよく飛ぶよ。



次の時間は、的の並べ方を考えたい。



【第3時】的の並べ方について伝え合う姿

A児「どうやって並べる？」
B児「2段で積んで一気に倒そう」
C児「ちょっと(的的を)離れたほうがいいよ」

振り返り

きりんの首が直ったよ。

次は、商品の棚を作ろう。

遊びの創出へ



先に倒れた的が邪魔にならないように、バラバラに置いたらうまくいったよ。

次は、ルールを考えたい。

新たな課題へ

幼稚園教育要領等 総則

(平成29年3月公示)

言語に関する能力の発達と思考力等の発達が関連していることを踏まえ、園生活全体を通して、幼児の発達を踏まえた**言語環境を整え、言語活動の充実を図る。**

小学校学習指導要領 総則

(平成29年3月公示)

言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる**資質・能力を育成**していくことが重要である。



5歳児Ⅲ期(9月～10月)

第1学年2学期(10月～11月)

言葉による伝え合いの場や環境の工夫

新! きりん組のお店へようこそ!
(映画館を作ろう!) 3章P. 27

生活科: つくろう あそぼう たのしもう
3章P. 30

その1 言葉による伝え合いが生まれる遊び・グループでの制作タイム

A児とB児、指導者が『三匹のやぎのがらがらどん』の絵本で影絵劇をしています。
※磨りガラスのドアを隔てて外側が演じる側、内側が観る側になっている。



(映画館) 中で観ていた人に(感想を)聞いてみよう!



(声が)聞こえなかった

指導者「**どうしよう**」
B児「**スピーカー、マイク!**」
再度挑戦する
B児「**(マイクを持ち)聞こえた?**」
中の幼児「**はい!**」

対話的な学び

映画館の事例では、指導者が**意図的に**ドアの外側と内側の幼児をつないだり、**問いかけたりする**ことで、協同で取り組む姿となりました。

小学校教育でも、グループ同士が**アイデアを共有**することで共通点に気付く姿となりました。

【パチンコグループ】



引っかけて飛ばすものを作ろう!

毛糸だと飛ばないよ。

輪ゴムはないかな。



飛ばせるように**ゴム**を使ったよ。

他のグループと比べてみよう!

パチンコグループとバズーカグループは、工夫が同じことに気づき、合同的当て屋さんを開きました。



ゲームができる回数を考えよう。

お金を作ったらどうか。

主体的な学び

幼児教育でも、小学校教育でも**相手意識をもつ**ことで、声を届けるための**アイデア**が生まれたり、ルールを工夫したりする姿となりました。

【振り返りの三つの観点】

- ① 成果を共有する
- ② 課題を共に解決する
- ③ 次の活動の見通しをもつ

その2 三つの観点を意識した振り返り

困っていることを意図的に取り上げることで、全員の気付きとなるようにしました。



三つの観点を示すことで、全ての児童が書き、互いに読み合い、活動を共有することができました。

3年生理科
「風やゴムの働き」へ



算数科
「大きいかず」へ

(2) 校園の取組や学びの姿を知り、そのよさを取り入れたB小学校区

	幼児期の終わりまでに育てたい姿	キーワード	第1学年の終わりまでに育てたい姿
目指す子どもの姿	目的に向かって、互いの思いやイメージを共有し、よりよいものにするために練り合う	言葉による伝え合い	伝えたいという気持ちを持ち、相手や目的に即して、伝え方を工夫する
	友達と協力しながら目標に向かって取り組む中で、自己を発揮し、自信や意欲をもって過ごす	協同性	目的を達成するために、見通しを持ち、試したり、調べたり、友達と話し合ったりすることで、分かったことをまとめる

5歳児Ⅱ期(6月～8月)

大変！大変！かまきりの赤ちゃんを助けなきゃ
3章P. 23

かまきりの卵から赤ちゃんがたくさん生まれたが、数匹死んでしまいました。
小さい虫を食べるといふ情報を知り…



アブラムシだったら、園にいるよ！

アブラムシって赤色だよ。

黒色だよ！

主体的な学び

かまきりの赤ちゃんを助けたいという**幼児の強い思い**が原動力です。

対話的な学び

対話の中で、本の有用性を実感し、本を活用する姿につながりました。

深い学び

文字や目次の使い方は十分知らないが、**絵を手がかりに調べる姿**となりました。
また、実際にアブラムシを見つけたことが、**実感を伴った学び**となりました。

C児は図鑑で調べてみました。

C児「これがアブラムシだよ」
A児「思っていたのと違ったよ」
先生もアブラムシの居場所を知らないということが分かり…
A児「もう一度、本で調べよう」
でも、見つかりません。

クラス全体で探そう！と、まとまり、後日、**園庭でアブラムシを見つける**ことができました。

5歳児Ⅲ期(9月～10月)

見て！わたしたちのショーウィンドウ
3章P. 25

お知らせタイム

今日は、アイスクリーム屋さんのガラスのもの(ショーウィンドウ)を作ります。



主体的な学び

友達と一緒の通し姿がありました。

対話的な学び

聞かれたことに向き合い、考える姿となりました。

質問するスタイルの振り返り



これが完成しました。

なぜそれをつけたのですか。

触ったら、ばいきんがつくからです。

対話的な学び

聞かれたことに向き合い、考える姿となりました。

5歳児Ⅱ期

身近な人に、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりすることができるようになってきました。文字はまだ十分知りませんが、絵を手がかりに本や図鑑で調べたり、文字を使って伝えたりする姿が見られました。

5歳児Ⅲ期

目的の実現に向けて、考えたことを相手に分かるように言葉で伝えようとしていたり、相手の話に質問したりすることができるようになってきました。また、相手に応じて言葉の使い方を変えようとする姿も見られました。



の小学校の学び



1年生の学習への円滑な接続を意識し、全体の場やグループ活動の中で伝え合う経験を積ませたい！



幼児期の交流の取組や本で調べた経験を活用



活動の前後に全体交流をもつことで、遊びの方向性やイメージを共有する5歳児の姿を知った。
本も教室に置き、調べられるようにしよう！

取組の改善



取組の改善

第1学年1学期(7月)

取組の改善

第1学年2学期(10月)

生活科:なつと なかよし 3章P. 31

生活科:つくろう あきの おくいもの 3章P. 32



園で夏の遊びはたくさん経験してきている。それを生かして、児童が準備や計画を立てる姿を目指そう！

主体的な学び

園での経験を想起することで、「しゃぼん玉大作戦！」という目的をもちました。
方法や準備物を児童自らが考える姿となりました。

主体的な学び

相手・目的意識をもつことで、話し合ったり本で調べたりする必然性が生まれました。

お知らせタイム



ガチャガチャを作ります。



【気付いたことを全体の場で発表】ストローの先を切って、ゆっくりと、途中で止めたりしながら吹くと、大きなしゃぼん玉ができます。

回すと箱からカプセルを出せるように考えたよ！

どうやったら、うまく作れるの？

【自分がやってみたことを記入】大きなしゃぼん玉を友達とつなげたいです。



対話的な学び

少し難しいことに挑戦することで、話し合いながら試行錯誤し、解決する姿となりました。

対話的な学び

自分が発見したしゃぼん玉の工夫を、自分の力で「～です」と最後まで伝えることができました。
友達の発表を聞き、さらに活動を広げたり、友達とつながったりする姿となりました。

全体での振り返り

商品をもっと作りたいです。

国語科「知らせたいな 見せたいな」へ

おもちゃの工夫したところについて、説明する方法を学びました。

1年生 1学期

自分から一方的に伝える場面において、最後まで説明することができるようになりました。
幼児期は、「話しことば」が主でしたが、「書きことば」も意識できるようになりました。

1年生 2学期

全体の場で、事柄の順序に気を付けて話したり、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないだりすることができるようになってきました。

4 カリキュラムをより実行性のあるものにするために語りましょう！

(1) 連携から接続への発展の過程

発展の過程	現状
ステップ0	連携の予定・計画がまだない
ステップ1	連携・接続に着手したいが、まだ検討中である
ステップ2	年数回の授業、行事、研究会などの交流があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない
ステップ3	授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている
ステップ4	接続を見通して編成・実施された教育課程について、実践結果を踏まえ、さらによりよいものとなるよう検討が行われている

自校園の取組はどんな現状ですか？



私の小学校区は、ステップ2です。



私の小学校区は、幼小接続期カリキュラムを作成しています。これで幼小連携はバッチリだね！



表1 連携から接続への発展の過程(文部科学省「平成24年度幼児教育実態調査」より)



幼小接続期カリキュラムを作成するだけでなく、下記の二つの「語る」で目指す子どもの姿に迫っていきましょう。

(2) 事後検討を通してのカリキュラムの更新

取組1

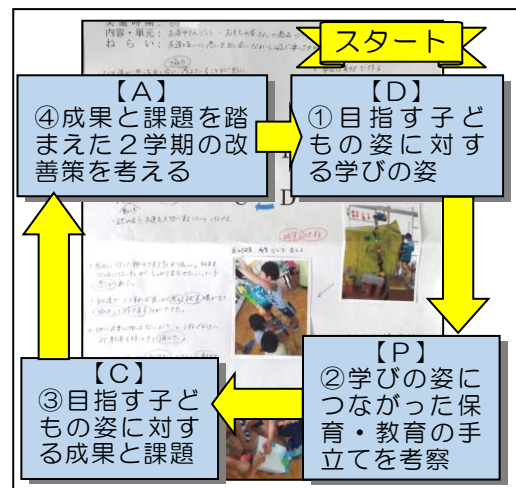
実践を振り返り語る

1学期の取組を事後検討



1学期は振り返りの時間を大切にしました。そのことが、次の活動につながりました。

2学期はグループでの話し合いを行うことで、言葉による伝え合いの力を高めたいです。



指導者が記入したPDCAシート

目指す子どもの姿に対して、目の前の子どもの姿から振り返り【D】、その学びの姿につながった保育・教育の手立てを考察し【P】、成果と課題を整理【C】することで、次の改善策【A】が見えてきます。

取組2

参観した子どもの姿から語る

一人1台タブレット端末を持ち、目指す子どもの姿に関わる子どもの姿を撮影し、研究協議で活用しました。



笑顔で、ショーウィンドウを作りきったことを発表している写真です。

私もその場面を撮影しました。言葉で伝え合いながら、3人で試行錯誤していましたね。

【研究協議の方法】

- ① 目指す子どもの姿に関わる姿が顕著に見られた写真を3枚程度選択
- ② 子どもの姿、その姿につながったもの(手立て等)を付箋に記入
- ③ 写真を示しながら交流
- ④ 付箋を分類・整理

「百聞は一見に如かず」。参観することで、子どもの様子や互いの保育・教育の理解が深まります。目指す子どもの姿を意識して、参観することで子どもの見方を共有することにつながります。

「語る」を終えて 声・声・声

5歳児の姿を知ること、1年生の活動の参考にすることができた。(研究委員)

伝え合う力の育成を目指し、実践してきた保育が子どもたちの姿の変容へと着実につながってきているのを感じた。(研究委員)

子どもの遊びの中には、小学校の学びにつながる体験が多くあることに改めて気付かされた。小学校の先生としっかり共有し、確かな学力につなげたい。(専門委員)

小学校につながる力の基を互いに知り、分析していくことが今後、求められてくる。(専門委員)

目指す子どもの姿を意識した保育をし、今後も、コミュニケーション力、考える力、協同性を育むことが大事だと実感した。(研究委員)

小学校の教師と幼児教育の教師の視点の違いはあるが、その違いを踏まえ、お互いの目指しているものをもっと知る必要がある。気軽に構えない交流をしていきたい。(研究委員)

「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」は、どのような過程で育まれてきたのかをもっと、小学校に伝える必要がある。(専門委員)



P.13~16で紹介した目指す子どもの姿に迫った取組の詳しい事例は第3章で紹介しています。

第3章へGO!


第3章

実践事例


1 主体的・対話的で深い学びの視点を生かして目指す子どもの姿に迫りましょう！

どんなことを意識して保育・授業改善をしたの？
もっと知りたいな。

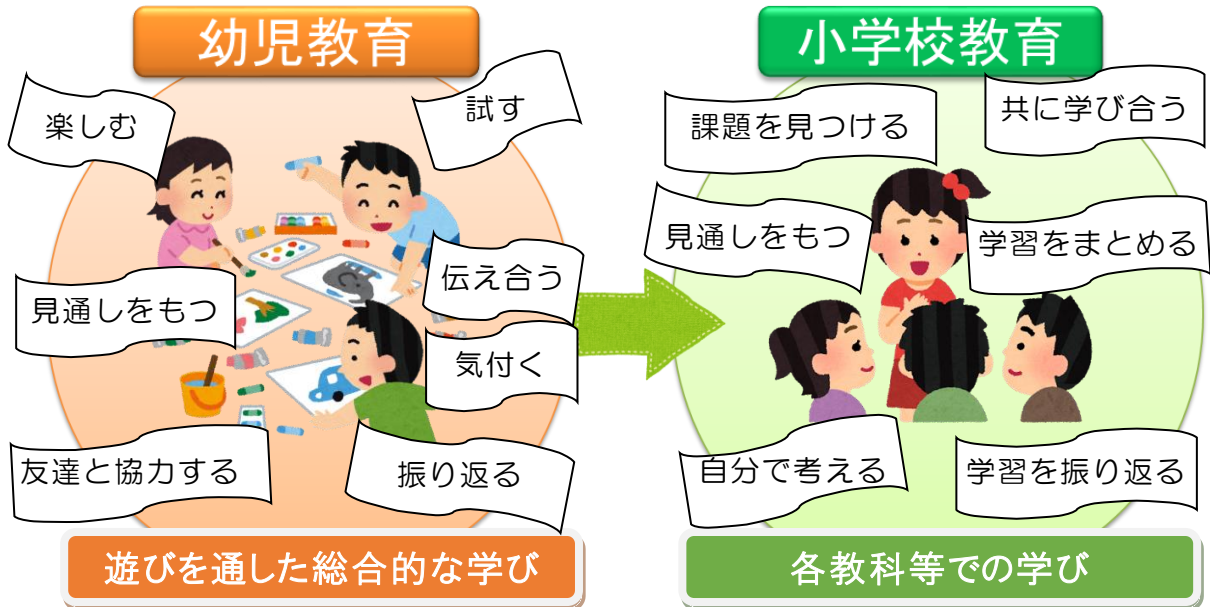

幼稚園教育要領等や小学校学習指導要領(平成29年
公示)においてその方向性が示されています。



幼稚園教育要領等(平成29年公示)
指導計画の作成上の留意事項
幼児の発達に即して主体的・対話的で
深い学びが実現するようにするとともに、心を動かされる体験が次の活動を生み出すことを考慮し、一つ一つの体験が相互に結び付き、園生活が充実するようにすること。



小学校学習指導要領(平成29年公示)
総則
単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。



幼児教育は、幼児が主体的に遊びや環境に関わる中で、試行錯誤しながら総合的に学んでいきます。幼児教育の一層の充実を図るとともに、小学校教育では、幼児期に育まれた三つの資質・能力をもとに、各教科等の見方・考え方を育む授業改善を図ることが大切です。



平成29年度滋賀県学校教育の指針の中でも、幼児教育における指導の充実や、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が示されています。

幼児教育での 主体的・対話的で深い学び

小学校教育での 主体的・対話的で深い学び

- 周囲の環境に興味や関心をもって積極的に働きかける
- 見通しをもって粘り強く取り組む
- 自らの学びを振り返って次の遊びにつなげる

主体的な学び

課題意識と見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習を振り返って次につなげること

- ものと向き合い、ものへの理解を深める
- 他者との関わりを深める中で、自分の思いや考えを表現する
- 友達と伝え合ったり、考えを出し合ったり、協力したりして自らの考えを広げ深める

対話的な学び

他の人との協働や対話、本や資料との対話等を通して、自己の考えを広げ深めること

- 直接的・具体的な体験の中で、見方・考え方を働かせて対象と関わって心を動かす
- 幼児なりのやり方やペースで試行錯誤を繰り返し、生活を意味あるものとして捉える
- 美しさや不思議さ等の追求や問題解決に向けて探求的に学ぶ

深い学び

習得・活用・探求のプロセスを通して、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、より深く理解したり、創造したりすること

次のページから、A小学校区とB小学校区の幼児教育と小学校教育のそれぞれの言葉による伝え合いを軸とした実践における主体的・対話的で深い学びにつながる手立てが載っています。



2 詳しく紹介します！ 主体的・対話的で深い学びの姿

(1) 5歳児Ⅱ期(6月～8月)1



時期 6月

ねらい

- ・友達と思いを出し合いながら、一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう
- ・様々な素材を使ってイメージを実現したり、友達と協力し制作に取り組んだりする

きいんのしっぽって、どんなしっぽ？

「おもちゃ屋さん」の商品に大きなきりんを作りました。長いきりんの首はぐらぐらで、すぐ倒れてしまいます…。



①

指導者「せっかく素敵なきりんを作ったのに、首がぐらぐらだよ」
 A児「ぼくたちが直すよ」
 (テープを重ねて貼る)
 B児「まだぐらぐらだ」
 C児「ちょっと、聞いて！バランスだよ」
 A児「テープを長くして、足までのばそう」
 D児「土台の足が、ぺったんこじゃないよ」



②

みんな「やったあ！立った」
 指導者「きりに、足りないものないかな」
 B児「しっぽ！これ(食品用ラップフィルム)の箱で作ろう」
 指導者「図鑑を見てみようか」
 「あっ！Fさんも一緒に考えてくれる？」
 (図鑑を見て考える)
 D児「耳もないよ」
 E児「つのみたいなものもない」
 A児「しっぽはふさふさしてる」
 指導者「髪の毛みたいな感じ？
 何で作ろうか？」
 A児「毛糸！毛糸がほしいな」

主体的な学び



「ぼくたちが直すよ」
 使命感をもつことで、幼児の試行錯誤が始まります。

対話的な学び



対話的な学びの中に、指導者が疑問を投げかけたり、他の幼児とつなげたりすることで少人数での話し合いの機会を多くもつことも一つの方法です。



③

(F児がビニールひもの先を黒く塗って持ってくる)
 指導者「Fさんがこんなの持ってきてくれたよ」
 A児「毛糸をセロテープでつけよう！(毛糸をビニールひもにつける)」
 E児「きりんのしっぽって、どのくらいの長さ？」
 D児「(図鑑を見て)地面につかないくらいだよ」

深い学び



図鑑には、必要な情報があるということが分かり、自分で活用する姿があります。



はこでつくったよ

時期 第1学年 図工科 12月

P.38 算数科「いろいろなかたち」と合科関連的な指導の工夫ができます。

ねらい はこを組み合わせて、表したいことを思いつき、材料や作り方を工夫して表現することができる

活動

- (1)算数科「いろいろなかたち」から、活動を広げ様々な材料を組み合わせて制作する。
- (2)一人で作ったり、友達と協同で作ったりする中で、はこ等の組み合わせや作り方の工夫に気付く。



つなげて、もっと長い電車を作ろう。

ぼくたちは、背の高さより高い建物を作るんだ。



- (3)作ったものを組み合わせて〇〇ランドを作り、発表する。



接着剤は乾かさないとだめだね。

ぼくたちは、未来ランドを作りました。道路や海も作ったので見に来てください。



わたしたちは動物ランドを作りました。動物と一緒に、遊ぶ自分たちも作ったよ。

経験が
制作活動の

工夫して
表現することが
できるのは

豊かな感性と表現

豊かな感性と表現は、美しいものや心を動かす出来事に触れてイメージを豊かにし、表現に関わる経験や楽しさを積み重ねながら、育まれていきます。

5歳児後半では、身近にある様々な素材の特徴に気づき、必要なものを選んで表現したり、友達と工夫して創造的な活動をしたり楽しんだりします。また、共通の目的に向けて、それまでの経験を生かし、考えを出し合い、工夫して表現することを一層楽しむようになります。

小学校教育では、幼児期の学びを基とし、いろいろな形や色、触った感じなどを捉え、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりします。また、用具の使い方も発達段階に応じて学んでいきます。

幼児教育でも小学校教育でも、活動の際に、幼児・児童が実現したい思いを大切にします。



「幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針中央説明会資料」平成29年(2017年)7月、内閣府、文部科学省、厚生労働省 をもとに作成

(1) 5歳児Ⅱ期(6月～8月)2

時期 5月下旬～6月

ねらい 虫や生き物を世話する中で、成長に気付いたり、考えたりする

大変！大変！ かまきりの赤ちゃんを助けなきゃ

かまきりの卵から赤ちゃんかまきりがたくさん生まれました。幼児は、虫かごにシロップや葉を入れました。でも、赤ちゃんかまきりが数匹死んでしまいました。



かまきりの赤ちゃんは小さい虫を食べるみたいだよ。アブラムシを探しに行こう！



アブラムシだったら、園にいるよ！
赤ちゃんのために、探しに行く！



主体的な学び

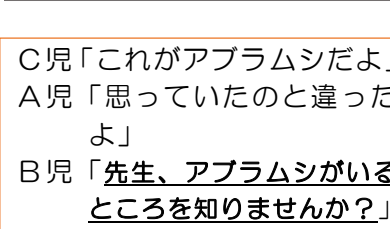
ポイント



1

A児「アブラムシって赤色だよ」
B児「黒色だよ！」
C児は教室に戻り、図鑑で調べてみました。
C児「見つけた！」

かまきりの赤ちゃんを助けたい！という幼児の強い思いが、主体的な学びの原動力です。



2

C児「これがアブラムシだよ」
A児「思っていたのと違ったよ」
B児「先生、アブラムシがいるところを知りませんか？」

対話的な学び

ポイント

自ら本で調べたことがグループから全体へ広がりました。友達の対話の中で、本の有用性を実感したA児が本を活用する姿につながりました。



3

先生もアブラムシの居場所を知らないということが分かり…
A児「もう一度、本で調べよう」
でも、見つかりません。

深い学び

ポイント

文字や目次の使い方は十分知りませんが、絵を手がかりに調べる姿がありました。もっと知りたい！という気持ちが高まります。

「帰りの会でみんなに伝えたい！」

指導者の補助のもと、かまきりのえさは動く虫であることや、アブラムシを探していることを伝えました。

クラス全体で探そう！と、まとめました。



4

後日、園庭でアブラムシを見つけました。調べたことが実感を伴った学びになった瞬間です。



世界で一つだけのじどう車ずかんを作ろう！

時期 第1学年 国語科 11月

ねらい 知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、本や文章から大事な言葉や文を書き抜くことができる

活動

(1) 学習の見通しをもつ。

(2) 目次の使い方を知る。



どんな車を調べようかな。
誰に伝えようかな。



目次って
便利だな。

(3) 教材文を使って説明の観点を見付ける。

(4) 図鑑を使って、じどう車ずかんを作る。



学んだことを
生かして、自分
でできたよ。

本で調べた
経験が

大事な言葉や
文を書き抜く
ことができるのは

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚は、数量や文字等に接しながらその役割に気づき、親しむ体験を通じて育まれていきます。

5歳児は、知的好奇心が高まってくる時期でもあり、調べたい！知りたい！と感じたその瞬間に子どもたちが本を手にとることができるように、保育室には、指導者が選書した様々な分野の絵本や図鑑が置かれています。また、活動に応じて、事前に絵本の読み聞かせをしたり、本を活用したりすることもあります。

小学校教育では、授業の中で、本の使い方や調べ方を指導した後、本や資料を活用した授業を行うことで、全ての児童が当該学年の力を身に付けることができるよう指導します。

幼児教育でも小学校教育でも、知的好奇心を高めたり、自分で調べる喜びを高めたりすることができるようにしたいものです。



絵本の読み聞かせの後、自分の虹を描く幼児

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針中央説明会資料」平成29年(2017年)7月、内閣府、文部科学省、厚生労働省 をもとに作成

(2) 5歳児Ⅲ期(9月～10月)1



時期

9月中旬～10月上旬

ねらい

自分の思いや考えを友達に伝えたり、相手の思いを聞いたりして、一緒に遊びを進めることを楽しむ

見て！わたしたちのショーウィンドウ

運動会の取組の中で、みんなで相談したり振り返りをしたりする機会を多くもつことで、思いや考えを言葉にして伝えようとする姿が多く見られるようになってきました。アイスクリーム屋さんの活動では…。

今日は、アイスクリーム屋さんのガラスのもの(ショーウィンドウ)を作ります。

お知らせタイム



事前にすることを紙に書くという発想は幼児から生まれたものです。

主体的な学び **ポイント**

やってみたいことを友達と一緒に発表します。事前に紙に書いている幼児もいます。目的をクラスみんなで共有するようにしました。



B児「これ(1枚のビニール)だったら足りない…先生、もう1枚ほしい」

B児「Aちゃん、手伝って」
A児「こっちな？(向きを変える)」

対話的な学び **ポイント**

一人でビニールを扱うには大きすぎるため、自然と役割分担をするようになります。友達と一緒に進める必然性があるようにしました。



いよいよ店の看板の棒にビニールを取り付けます。
A児「ここで切ったらだめ」
B児「え？じゃあどこ」
A児「棒のところにくるってできる(巻き付けられる)ようにしなきゃ」
C児「そう、そこ！私、ここを持ってるね」

深い学び **ポイント**

友達と言葉で伝え合いながら進めることで、目的を達成するためのアイデアを共有することができました。

質問するスタイルの振り返り

3人「これが(ショーウィンドウを示す)できました」
A児「完成しました(耳うちをする)」
3人「これが完成しました！」
拍手
D児「なぜそれ(ガラス)をつけたのですか」
3人「触ったら、ばいきんがつくからです」
E児「なぜガラスがあるのですか」
3人「(しばらく考える)勝手に作ったらだめだからつけました」
指導者「一つは～、もう一つは～だね。いい方法を考えたね」



幼児同士が質問し合うことで、聞かれたことに向き合い考える姿となりました。また、指導者が、話を補足したり、まとめたりすることで、他児にとってもわかりやすい交流となります。



パワフル 水鉄砲バトル“倒してポイントゲット”

時期 第1学年 生活科 7月

ねらい ・夏の自然に関心を持ち、計画を立て、みんなで楽しく遊ぼうとしている
・遊び方の工夫を友達と伝え合うことができる

活動

(1)水を使った遊びの計画を立てる。(2)勢いよく、遠くへ飛ばす工夫を見つける。



「パワフル 水鉄砲バトル」楽しみだな。水鉄砲になりそうなものは…。よし、マヨネーズの容器を持ってこよう。



ぎゅっと強く握ったら、遠くへ飛ぶよ。

まっすぐに向けたら、飛ぶんじゃないかな。

(3)的の並べ方をグループで考える。(4)水鉄砲バトルをする。

2段で積んで一気に倒そう!



どうやって並べる?



やったあ!

ペアになって一つずつ的をねらったよ。最後は4人全員で力を合わせたの。

共通の目的を
実現した経験が

計画を立て、みんな
で楽しく遊ぶこ
とができるのは

協同性

協同性は、教師との信頼関係を基盤に他の幼児との関わりを深め、思いを伝え合ったり試行錯誤したりしながら一緒に活動を展開する楽しさや、共通の目的が実現する喜びを味わう中で育まれていきます。

5歳児の後半には、その目的の実現に向けて、考えたことを相手に分かるように伝えながら、工夫したり協力したりし、充実感をもって幼児同士でやり遂げるようになります。

小学校教育では、授業や学校生活の中で、学習や学級全体の目的等に向かって、取り組んだり、意見を交流したりすることで、共に学び合う姿となります。

幼児教育でも小学校教育でも、友達や学級全体で目的をもつことで協同する必然性が生まれます。また、共に活動することにより、互いのよさを認め合う関係ができてきます。



ショーウィンドウを協力して制作する幼児

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針中央説明会資料」平成29年(2017年)7月、内閣府、文部科学省、厚生労働省 をもとに作成

(2) 5歳児Ⅲ期(9月～10月)2

時期

9月～10月下旬

ねらい

友達と意思を出し合いながら、共通の目的に向かって一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう

映画館を作ろう！

夏休みに映画を観たことから、「映画館を作ろう！」と遊びが始まりました。保育室の隅に教師と共に段ボールで壁や屋根を作り暗くしました。映画館の壁の一部である保育室のドアの下部は磨りガラスです。廊下からの光が入ることで、影が映ることを幼児が発見し、影絵劇が始まりました。



1

A児とB児、指導者が『三匹のやぎのがらがらどん』の絵本で影絵劇をしています。(※A児と指導者はペープサートの役割)

指導者「(映画館の)中で観ていた人に聞いてみよう！」

C児「(声)聞こえない」

D児「私も聞こえなかった」

対話的な学び

ポイント



2

指導者「どうしよう」

みんな「考える」

B児「スピーカー、マイク!」

C児「マイクだったら聞こえる」

みんな「やってみよう！」

指導者が意図的にドアの外側と内側の幼児をつないだり、問いかけたりして、幼児の伝えきれない思いを伝えていきます。



3

B児「(マイクを持ち)聞こえた?」

中の幼児「はい!」

(B児が読み始める。E児が横に座り、文字を指で追い始める)

A児「聞こえてる?」

中の幼児「もう少し大きな声で」

(B児がマイクを持ち直す)

(次々に友達が集まってくる)

(影絵劇が終わり、拍手!)

F児「今度はぼくが読みたい!」

対話的な学び

ポイント

影絵遊びは一人ではできない遊びです。演じる側とそれを確認する側が協同で取り組むことで、自然と自分の役割を考え、動く姿となります。また、絵本に親しみながら豊かな言葉や表現を身に付けていきます。



4

三つの観点を意識した振り返り

成果を共有する
課題を共に解決する
次の活動の見通しをもつ

指導者「先生、困ったことがありました。3人で(映画館を)してただけど、(ペープサートを)持てない場面があったよ。何人だったらいいと思う?」

指導者「5人は?」 みんな「できる」

指導者「6人は?」 みんな「多い!」

C児「やる人と中で確かめる人で分かれたらいいと思う」

深い学び

ポイント

困っていることを意図的に取り上げることで、役割分担し、協同することの大切さに気付くようにしています。



音読発表会をしよう

時期 第1学年 国語科「おおきなかぶ」 7月

ねらい 場面の様子を想像しながら、物語の展開を楽しんで読み、音読することができる

活動

- (1) 学習のゴールで音読発表会をするということを確かめ、どんな発表会にしたいのか考える。
- (2) 場面の様子や人物の行動について、物語全体をとらえて読む。



5歳児を招待したい！

「うんとこしょ どっこいしょ」が何回も出てきておもしろいね。



人数が増えていくから、最後は、一番大きな声で読みたいな！

- (3) 役割に分かれて読んだり、動作を取り入れたりして工夫する。

役割を決めようよ！

動きも入れたいな！



- (4) 音読発表会をする。

劇遊びの経験が

場面の様子を想像しながら読むことができるのは

言葉による伝え合い

幼児期は、身近な人との言葉のやり取りの楽しさを繰り返す中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けていきます。また、次第に伝え合うことができるようになります。5歳児の後半になると、伝える相手や状況に応じて、言葉の使い方や表現の仕方を変えるなど、相手に分かるように工夫しながら言葉による伝え合いを楽しむようになります。

小学校教育では、幼児期の学びを基とし、学校生活や学習において、友達と互いの思いや考えを伝え合うことで考えを広げたり、深めたりします。また、目的や相手の状況などに応じた様々な伝え方や方法を学び、学んだことを活用する姿につながっていきます。

幼児教育でも小学校教育でも、気軽に言葉を交わすことができる雰囲気や関係の中で、伝えたいような体験や学習をしたり、相手の考えや行動を知りたいと必要性を感じたりすることで言葉による伝え合いが始まります。

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針中央説明会資料」平成29年(2017年)7月、内閣府、文部科学省、厚生労働省 をもとに作成

(3) 第1学年実践事例1

5歳児V期(1月~3月)のねらい

- ・友達とイメージを共有し、動きや言葉、音、歌などで表現し演じて遊ぶ
- ・友達の存在を認めながら協力して遊びや生活を進め、充実感を味わう
- ・一人ひとりが自分らしさを大切にしながら、自信をもって主体的に行動する

5歳児で経験した夏の遊び



泥団子づくり、砂遊び、色水遊び

幼児期の育ちや
経験を踏まえて

生活科:なつは ともだち(7月)

第1学年

ねらい

- ・遊び方の工夫を友達と伝え合っている
- ・夏の自然に関心を持ち、計画を立て、みんなで楽しく遊ぼうとしている

時間	学習活動	指導者の支援	ポイント
第1時 立てよう 計画を よう	<ul style="list-style-type: none"> ・水を使った遊びを発表し、園では経験のなかった水鉄砲遊び「パワフル 水鉄砲バトル “倒してポイントゲット”」を考える。 ・水鉄砲になりそうな身の回りのものを考え、準備する。 	<p>水鉄砲でどんなことがしたい?</p> <p>遊びの名前もみんなで決めよう!</p>	<p>主体的な学び ポイント</p> <p>学習の出口や毎時間のめあてを児童が考えることで、主体的に学習に向かえるようにします。</p>
第2時 工夫を見つけてよう 勢いよく、遠くへ飛ばす	<p>めあての設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・的に水を当てることができるように考える。 <p>全体での振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穴の数が一つと四つでは違う ・水鉄砲をまっすぐ向ける ・水の量が少なくなると的に当たらない ・ぎゅっと強く握る 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発言を生かし、めあてを設定する。 ・繰り返して試すことで、児童の気づきを促す。 	<p>対話的な学び ポイント</p> <p>もの(水鉄砲や水)とじっくり向き合ったり、友達と交流したりすることで気づきが生まれました。</p>
第3時 考えよう 的の並べ方を	<p>めあての設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・的の並べ方を工夫(等間隔、積む、固める)し、試す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りを生かし、めあてを設定する。 <p>2段で積んで一気に倒そう!</p> <p>ちょっと(的と的を)離れたほうがいいよ。</p>	<p>深い学び ポイント</p> <p>予想したことがうまくいかなかったことで、思考錯誤が始まりました。</p>

第3時	<p>全体での振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積み上げて一気に的を崩せると思ったら、先に倒れた的が邪魔になった ・バラバラに置いたらうまくいった 	 <p>振り返りを大切にすることで、子どもが学びを自覚したり、次の活動に主体的に関わったりする姿が見られました。</p>
第4時	水鉄砲バトルをしよう	

生活科：つくろう あそぼう たのしもう(10月～11月)

- ねらい
- ・相手意識・目的意識をもって、秋の自然物を使って作ったおもちゃや遊び方について話し合いを通して工夫することができる
 - ・活動を通して気付いたことを振り返り、伝え合うことができる

時間	学習活動	指導者の支援
第1時	・秋の自然物を使ったおもちゃで遊ぶ計画を立てる。	 <p>どうやって作る？</p>
第2時 ～ 第7時	<p>その1 グループでの制作タイム</p> <p>パチンコグループ  <ul style="list-style-type: none"> ・Ｙになっている、引っかけて飛ばすもの作ろう! ・毛糸だと飛ばないよ。 ・輪ゴムはないかな。 </p> <p>バズーカグループ  <ul style="list-style-type: none"> ・飛ばせるようにゴムを使ったよ。 </p> <p>パチンコグループとバズーカグループは合同で、的当て屋さんを開いた。</p> <p>おもちゃを作ろう</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームができる回数を考えよう。 ・お金を作ったらどうかな。 </p> <p>その3 三つの観点を示した振り返りタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの活動を共有したり工夫を知ったりする。 	<p>指導者の支援</p> <p>・<u>アイデアを共有</u>することができるように声かけをする。</p> <p>第3学年理科「風やゴムの働き」へ</p> <p>生活科の学びをつなぐ</p> <p>・お金の単位を「10モリー」とし、算数科の学びに生きるようにする。 ※「10モリー」は独自通貨</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくいったこと、困っていること、もっとやってみたいことの三つの観点を示すことで、振り返りを全員書くことができました。 </p>
第8時	秋のお店屋さん	

深い学び **ポイント**

互いのおもちゃを比べる場を設定したことで、共通点に気付いたり、改良したりできました。

生活科の学びをつなぐ **算数科「大きいかず」へ**

対話的な学び **ポイント**

相手意識をもったことで、ルールを変更したり、工夫したりする姿となりました。

思考・予測・試すことを通して新たな気づきを生み出し、学びを振り返ることで気づきの質が高まります。

(3) 第1学年実践事例2

5歳児V期(1月~3月)のねらい

- ・友達と一緒に見通しや目標をもって、いろいろな活動に意欲的に取り組む
- ・共通の目的や課題に向かって、友達と一緒に力を合わせてやり遂げる喜びを味わう
- ・目的に向かって、互いの思いやイメージを共有し、よりよいものにするために繰り返す

5歳児で経験した夏の遊び



泡遊び、砂遊び、色水遊び等

幼児期の育ちや経験を踏まえて

生活科: なつと なかよし(7月)

第1学年

ねらい

夏にふさわしい遊びを考え、身の回りのものを使って、グループで話し合いながら、遊びの準備をしたり、計画を立てたりすることができる

時間	学習活動	指導者の支援
第1時 立てよう 計画をよう	<ul style="list-style-type: none"> ・園で経験した夏の遊びを発表する。 ・話し合い、「しゃぼん玉大作戦!」に決定! ・遊びの準備を児童が考える。 	<p>もっとやってみたかったことあった?</p>
第2時 つくりたいしゃぼん玉をしよう しゃぼん玉遊びをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりがめあてをもつ。 ・しゃぼん玉遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毛糸、太さの異なるストロー等を準備しておく。 ・児童の試行錯誤を促し、方法・道具・遊び方の工夫への気付きへとつなぐ。
第3時 交流しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことを発表する。 <p>ストローの先を切って、ゆっくりと、途中で止めたりしながら吹くとうまくいきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試してみたい方法で挑戦する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力で発表できるように、見守ったり説明を補ったりする。

主体的な学び

ポイント

目的をもち、そのための方法や準備物を児童自らが考えました。

主体的な学び

ポイント

めあてをもち、活動します。児童が様々に試行錯誤できるように、児童の気付きを想定し、環境を整えました。

対話的な学び





ポイント

「～です」と最後まで説明する力を児童が身に付けたことで、全体へ学びが広がりました。

生活科：つくろう あきの おくいもの(10月)

ねらい

- ・相手や目的に合わせて秋の自然物を生かした遊びをする計画を立てることができる
- ・友達と話し合い、準備を自分たちで進めることができる

時間	学習活動	指導者の支援
第1時 立てよう 計画を よう	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児を秋のおもちゃ屋さん に招待するという目的をも ち、計画を立てる。 ・友達と話し合ったり本で調べ たりし、準備をする。 	<p>一緒に作っ たり、遊んだ りできるとい いね。</p> 
校外学習	 <p>どんぐりやまつぼっくりを拾ったよ！ おもちゃ屋さんで使いたいな。</p>	
第2時 ～ 第9時 秋のおもちゃ屋さん の準備をしよう	<p>お知らせタイム</p> <p>ガチャガチャを作り ます。</p> <p>回すと箱からカプセル が出るように考えたよ！</p>  <p>どうやったら 作れるの？</p>  <p>一緒に作ろう！</p> <p>全体での振り返り</p> <p>ガチャガチャの商品を もっと作りたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「お知らせタイム」「全体での振り返り」を活動の前後に設定し、グループごとに発表する。 ・少し難しいことに挑戦することで試行錯誤し、協同で取り組むことができるようにする。 ・振り返りで見通しをもつ。
国語科	<p>「知らせたいな 見せたいな」 ※5歳児に説明する方法を学びます。</p>	
第10時	<p>5歳児さんを秋のおもちゃ屋さん に招待しよう！</p>	

主体的な学び

ポイント

相手・目的意識をもつことで、話し合ったり本で調べたりする**必然性**が生まれました。



主体的な学び

ポイント

活動の前後に**全体交流**をもったことで、**目的を共通理解**したり**見通し**をもったりすることができました。

対話的な学び

ポイント

少し難しいことに挑戦することで、**共に解決しようとする姿**となりました。

生活科では、児童が幼児期から育んできている見方・考え方を働かせ、具体的な活動や体験を通し、学びを発展させていくようにしましょう。

3 もっと知りたい！ 実践のヒント集

(1) その1 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」編



言葉による伝え合いを軸とした保育・教育活動をする中で目指す子どもの姿に迫るだけでなく、その他の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が育っている場面が見られました。幼児期と小学校でその対比が顕著に分かる場面をいくつか紹介しています。

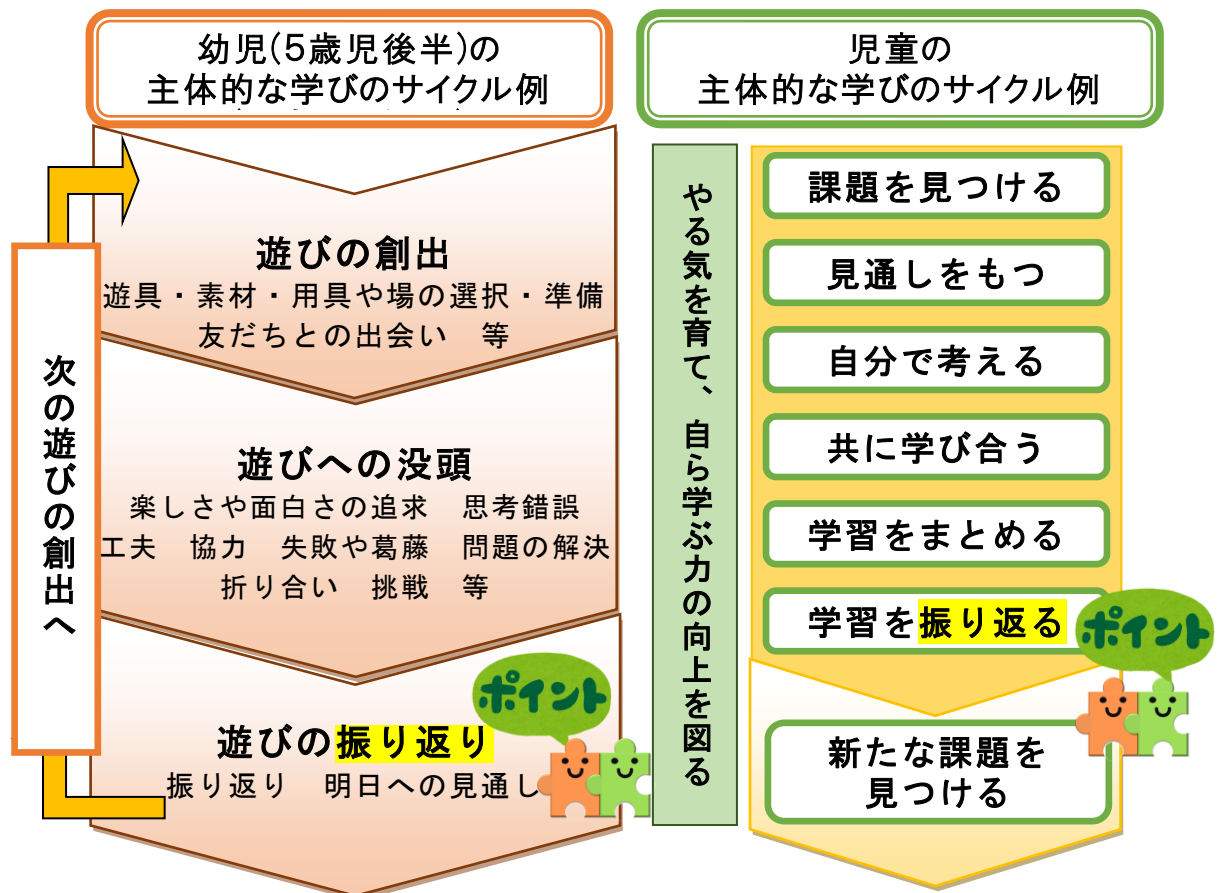
P.35へGO!

(2) その2 子どもたちの主体的な学びのサイクル編

振り返りを継続的に行うことで、次の遊びにつながり、子どもが主体的に学びに向かうことができました。



遊びや学びを振り返った後に、次の遊びを創り出したり、新たな課題を見つけたりするプロセスを紹介します。



幼児の主体的な学びのサイクル例を知りたい人は、

P.43へGO!

児童の主体的な学びのサイクル例も知りたいな！



小学校学習指導要領総則(平成29年公示)では、低学年全ての教科等と生活科との関連を図り、指導の効果を高めていくことが求められているよ。

小学校学習指導要領(平成29年公示)

総則 第2の4の(1)

(前略)また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。

例えば・・・

生活科 たのしいあきいっぱい

学校や公園で秋をたくさん見つけたよ！



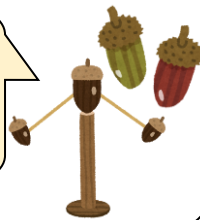
国語科 わたしのはっけん

見つけた秋を手紙で伝えたい！
書き方を知りたいな。



生活科 つくろう あそぼう

どんぐりでおもちゃを作ったよ。
もっと作って、遊んでもらいたい！



図工科 うつしたかたちから

葉っぱに紙をあててこすってみたよ。



小学校の実践を知りたい人は、

P.29へGO!



一人ひとりの児童の学びは、一つの教科だけで成立するものではなく、様々な教科の学びが相互に関連付き、つながり合っています。

幼児期の学びと育ちをつなげるために、例えば生活科を軸とした教科等横断的な工夫をすることなどが考えられます。



(3) 自然との関わり・生命尊重

時期 5歳児 5月下旬～6月

ねらい 虫や生き物を試行錯誤しながら世話する中で、成長等に気付く

おたまじゃくしのお部屋を作り直そう！

おたまじゃくしから手や足が出てきて、しっぽも短くなっていることに、幼児が気付きました。朝の会で、指導者はその話題を取り上げ、投げかけました。

おたまじゃくしは、水のあるところが大好きだね。蛙は、水がないところも、水があるところも大好きだね。
おたまじゃくしのお部屋は水がたっぷり入っているけど、どうしたらいいと思う？



A児「蛙になったら池にかえしてあげる」
B児「葉を入れたらいいよ。その上にぴよこんと乗るの」
C児「葉だと沈んでしまうよ」
D児「砂を入れたら」
指導者「こんな感じ？(ホワイトボードに水際の断面図を描く)」
みんな「砂を入れようよ！」
指導者「砂だと時間が経つとこんなふうに…(砂が下に沈んでしまう絵を描く)」
E児「水を減らしたらいいんじゃない」
みんな「でも、蛙さんの休む場所がないよ(考え込む)」
F児「石…(つぶやく)」
指導者「Fさん、何て言ったの」
F児「石を入れたらどうかな」
みんな「あっ！それいいね。蛙さん休めるし、滑り台にもなって楽しいよ！」

対話的な学び ポイント

幼児が言葉で説明しづらいときは、**指導者が絵等で示す**ことで、イメージを伝える補助となります。

沈黙の時間も大切にします。幼児からアイデアが出るまで、指導者は根気よく待ちます。

挙手での発表はもちろん、**つぶやきも大切に**します。**幼児が自由に発言することが**できる雰囲気^を指導者がつくります。



水を少なくする道具を準備したり、方法を考えたりし、協力して行いました。



試行錯誤しながらちょうどいい大きさの石を選びました。

主体的な学び ポイント

「**どうやって水を少なくしようか？**」と投げかけ、試行錯誤する機会をつくります。**教えるのではなく、幼児の気付きを待ちます。**



いきものとなかよし

時期 第1学年 生活科 9月

ねらい 野原や校庭で見つけた虫を飼うことで、生き物に親しみをもつとともに、虫の不思議に気付くことができる

活動

- (1) 友達が見つけてきた虫をきっかけに、知っている虫や見つけた場所について話し合い、虫を探しに行く。
- (2) 見つけてきた虫のすみかを作って飼い、様子を観察し、分かったことを伝え合う。



園では〇〇(場所)で、よく見つけたよ!



この動きはなんだろう?

- (3) さらに知りたいことを、図書館の本やインタビュー等、様々な方法で調べる。
- (4) 分かったことを友達と交流する。



地域の〇〇さんならよく知っているわ。



冬に虫はどう過ごしているか、もっと調べたいです。

生き物に
触れた経験が

生き物に親しみを
もち、関心をもつ
ことができるのは

自然との関わり・生命尊重

幼児期の自然との関わり・生命尊重は身近な自然と触れ合う体験を重ねながら、自然への気付きや動植物に対する親しみを深める中で育まれていきます。

5歳児後半には、好奇心や探究心をもって考えたことを自分なりの言葉などで素直に表現しながら、身近な事象への関心を高めていきます。

小学校教育では、幼児期の学びをもととし、動物を飼ったり植物を育てたり、調べたりする活動を通して、生き物の生態等を深く知り、関心をもって学びます。



「ざりがに、初めてつかめたよ!」

幼児教育でも小学校教育でも、身近な動植物に心を動かされる中で、実感を伴って生命の大切さを知ることは、生命あるものを大切に、生きることの素晴らしさの自覚を深めることにつながっています。

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針中央説明会資料」平成29年(2017年)7月、内閣府、文部科学省、厚生労働省 をもとに作成



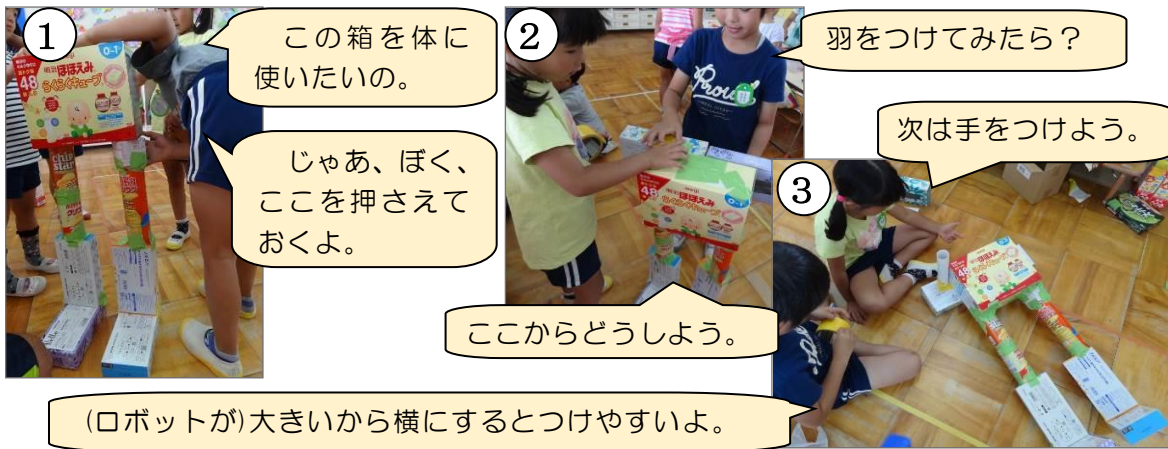
(4) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

時期 5歳児 4月～6月

ねらい
・友達と意を出し合いながら、一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう
・様々な素材を使ってイメージを実現したり、友達と協力し制作に取り組んだりする

箱、箱、箱の形！

4月からお店屋さんごっこが始まりました。6月下旬には、様々なお店ができました。その中の一つである「おもちゃ屋さん」では、女兒がロボットの足を作ったことをきっかけに、友達が次々にロボット作りに協力していきました。



指導者「先生の作ったロボットの足はぐらぐらしていたけど、Aさんの、しっかり立っている！」

みんな（拍手）

指導者「こんないいロボットはすぐに売れてしまうね」

みんな「男の子でも女の子でも欲しいと思うし、たくさん作ろう！」

指導者「こんなのを作った人もいたよ」

（幼児二人が作ったお城を持ってくる）

B児「同じカレーの箱で上の部分を作って、まだ小さいからティッシュの箱を二つ使って大きくしたの」

指導者「本当だ！よく見て！下は同じ箱、真ん中も同じ箱、上も同じ箱で高く積み上げているね」

「同じ箱を使うとどうなるの？」

C児「立つ！同じ大きさだったら、長さが同じだから立つけど、一方が長かったら、傾く」

指導者「Bさん、知っていた？」

B児「知っていた！作るのは簡単だよ」

みんな「作りたい！」



深い
学び

ポイント

指導者は全体の話合いの中で、ロボットがしっかり立っていることへの気付きを促し、「同じ箱を使うとどうなるの？」と投げかけることで、箱の長さに着目できるようにしました。そして、さらにその気付きをもとにした遊びが広がるようにしました。



いろいろなかたち

時期 第1学年 算数科 12月

P.22 図工科「はこでつくったよ」と合科関連的な指導の工夫ができます。

ねらい

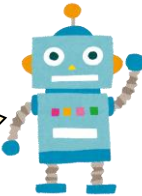
身の回りにあるものの形について、観察や構成、分解などの数学的活動を通して、ものの形を認めたり、形の特徴を捉えたりすることができる

活動

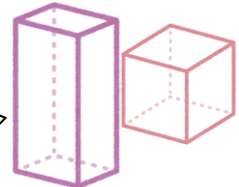
(1) いろいろな箱や缶、筒などの立体を用いて、身の回りにある具体物を作り、発表する。

(2) 作ったものは、どんな形でできているのか、友達となかま集めの活動を通して、立体の形の特徴を捉える。

園では、ロボットを作ったよ。



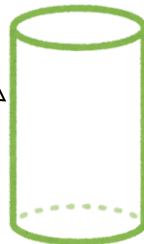
ロボットの足は…。



(3) 身の回りにあるいろいろな箱や缶、筒などの立体の面の形を写し取り、絵をかく。

(4) 平面図形の同じ形に同じ色をぬる活動を通して、ましかく、ながしかく、さんかく、まるの基本的な平面図形の特徴を捉える。

筒の底を写したら…まるになった！



制作活動の経験が

形の特徴を捉えることができるのは

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

幼児の数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚は、日常生活の中で、数量や文字等に接しながらその役割に気づき、親しむ体験を通じて育まれていきます。

5歳児の後半では、様々な形を組み合わせ遊んだりすることを通して、形やその長さなどの特徴に気付いていきます。遊びの中での経験や幼児の気づきを指導者が捉え、関心がもてるように丁寧に援助することが大切です。

小学校教育では、幼児期の学びを基とし、観察や構成、分解などの数学的活動を通して、ものの形やその特徴を捉えていきます。また、その名称も学んでいきます。

幼児教育でも小学校教育でも、具体的な活動を通して、捉えていくことができるようになります。



「幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針中央説明会資料」平成29年(2017年)7月、内閣府、文部科学省、厚生労働省 をもとに作成

(5) 道徳性・規範意識の芽生え

時期 5歳児 9月中旬～10月上旬

ねらい 自分の思いや考えを友達に伝えたり、相手の思いを聞いたりして、一緒に遊びを進めることを楽しむ

ロボットさんがかわいそう!

1学期からお店屋さんの遊びが続いています。しかし、遊びの中で困ったことがありました。朝の会で、みんなの前で提案しました。



1

お店の後ろにロボットさんがほったらかしになっていたので、困っていました。

ロボットさんを見て思ったことがあったんじゃないかな。

ロボットさんがかわいそうでした。



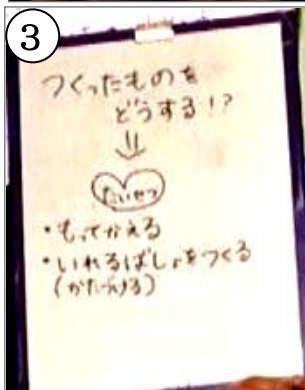
2

指導者「気付いていた人いますか？」
(半数が挙手)
指導者「落ちているロボットさんを見て同じ気持ちになった人いますか？」
みんな「かわいそう…」
(みんなが思い思いにつぶやき始める)

主体的な学び

ポイント

ロボットに思いを寄せた友達の気持ちに共感することで自分のこととして考える姿となります。



3

指導者「何かいい方法ないかな」
A児「持って帰ったらいい」
B児「名前を書いたらいい」
C児「大切にしたい!」
D児「入れる場所を作る」
指導者 (ホワイトボードに記入)
「大切にすると作ったものも嬉しい気持ちになるし、ほったらかしにすると悲しい気持ちになるね」

対話的な学び

ポイント

ロボットを放置する友達を責めるのではなく、みんなで一緒に解決策を考えることで、様々な方法を学ぶことができます。



遊びの後の振り返り

4

ドーナツ屋「片付けながら遊んでいました」
A児「きれいになるね」
B児「やり方がわからない」
ドーナツ屋「ちらばっているものを片付けます(店を見せる)」
みんな「きれい!」
指導者「何のためにきれいにしているの?」
ドーナツ屋「もっとお客さんに来てもらいたいから」
指導者「お客さんはどんな気持ちになるのかな」
みんな「(お客さんが)嬉しい気持ちになる」

深い学び

ポイント

遊びの中で意識したことで、相手が気持ちよく過ごせるためであるという新たな気づきが生まれました。



みんながつかうもの(規則の尊重 C-12)

時期 第1学年 特別の教科 道徳

ねらい みんなの使う物や場所を大切にすることは、みんなが気持ちよく生活できることにつながることに気付き、みんなで使う物を進んで大切にしようとする道徳的実践意欲を高める

活動

(1) みんなで使っている物を想起する。



(2) 教材「きいろいベンチ(わたしたちの道徳1・2年 文部科学省)」を読み、主人公の思いについて役割演技を通して、話し合う。

スカート汚してしまってたな。



(3) みんなで使う物の使い方を考える。

トイレのスリッパを揃えると、みんなが使いやすいね。



紙飛行機を飛ばすのが楽しかったから、ベンチに乗る靴のことまで考えていなかったよ!

(4) 振り返りを書く。

気持ちに共感した経験が

道徳的実践意欲を高めることができるのは

道徳性・規範意識の芽生え



道徳性・規範意識の芽生えは、他の幼児との関わりにおいて、自分の感情や意志を表現しながら、ときには自己主張のぶつかり合いにおける葛藤などを通して互いに理解し合う体験を重ねる中で育まれていきます。

5歳児の後半では、うまくいかないことを乗り越える体験を重ねることを通じて、相手の気持ちに共感したり、相手の視点から自分の行動を振り返ったりして、行動する姿が見られるようになります。

小学校教育では、特別の教科である道徳を要として学校の教育活動全体を通じて道徳性を育みます。道徳的な課題を自分のこととして考え、友達との話し合いを通じて考えを深めていき、日常生活へ生かしていきます。

幼児教育でも小学校教育でも、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていきます。

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針中央説明会資料」平成29年(2017年)7月、内閣府、文部科学省、厚生労働省 をもとに作成

(6) 思考力の芽生え

時期 5歳児 11月上旬

- ねらい
- ・友達と思いや考えを出し合いながら、一緒に作る楽しさを感じる
 - ・様々な素材に興味をもち、自分のイメージするものを表現する



きりん寿司 オープン間近!

きりん寿司を開店するために、お寿司作りに大忙しです。A児が指導者に、海苔の巻き方を教えています。そこへB児が…

1


A児：ご飯をこう(横向き)置いて、ポンドでつけるよ。

B児：違う！
ご飯が、えっと、こういう風に(うまく説明できない)。


2

B児「こうしてぐるぐると(ご飯を縦向きにして海苔を巻いた)」
A児「ぼくは“いくら寿司”を作っているよ」
A児は、いくら寿司を完成させたが、B児は、カップ巻きを作るために悩んでいる。




対話的な学び ポイント

言葉で伝え合うことで、イメージしている寿司の違いに気付くことができました。

3

指導者「どうしたらいいかな？」
B児「きゅうりを(粘土に)入れたいのだけど…」
C児「小さい棒に色を塗って差したら?」
B児「割り箸!」
(はさみで切ろうとするが、うまくいかない)
C児 (ストローを持ってくる)
B児「それだったらふにゃふにゃしているよ」
(ストローを固まった粘土に差すが、入らない)





対話的な学び ポイント

カップ巻きを作るという目的を達成するために、考えたり、予想したりしたことを伝え合うことで、物の性質に気付くことができました。
友達の多様な考えに触れたことが学びとなります。

4

C児：固まっていな
い粘土を使っ
てみよう!

できた!

深い学び ポイント

紙粘土の性質とその扱い方に気付くことができました。



つくろう あそぼう たのしもう

時期 第1学年 生活科 10月

ねらい 相手意識・目的意識をもって、秋の自然物を使って作ったおもちゃや遊び方について話し合いを通して工夫することができる

活動

- (1)秋の自然物を使ったおもちゃで遊ぶ計画を立てる。
- (2)自分の作りたいおもちゃを考える。

- (3)グループで、工夫して制作する。

パチンコグループ



Ｙになっている、引っかけて飛ばすもの作ろう！

毛糸だと飛ばないよ。

輪ゴムはないかな。

バズーカグループ



飛ばせるようにゴムを使ったよ。

おもちゃは違うけど、同じゴムを使っているね。

ゴムの力を使うと、遠くへ飛ばせるよ！



ゴムを使ったおもちゃを使って一緒に的当てコーナーを作ろう！

パチンコグループとバズーカグループの話し合い

考えた
り
試
し
た
り
し
た
経
験
が

話し
合
い
を
通
し
て
工
夫
す
る
こ
と
が
で
き
る
の
は

思考力の芽生え

思考力の芽生えは、環境に好奇心をもって積極的に関わりながら、新たな発見をしたり、もっと面白くなる方法を考えたりする中で育まれていきます。

5歳児の後半では、物の性質や仕組みなどを生かして、考えたり、予想したり、工夫したりするなど環境との多様な関わりを楽しむようになります。また、友達の様々な考えに触れる中で、異なる考えがあることに気付き、自分の考えをよりよいものにしようとする姿が見られるようになります。

小学校教育では、思考、予測、工夫することなどを通して新たな気付きを生み出し、学びを全体で交流したり振り返ったりすることで気付きの質を高めていきます。

幼児教育でも小学校教育でも、好奇心や探求心を引き出すような環境や授業の工夫をすることが大切です。



「幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針中央説明会資料」平成29年(2017年)7月、内閣府、文部科学省、厚生労働省 をもとに作成



(7) 幼児の主体的な学びのサイクル例

このページは、27ページに示している事例と同じ事例です。幼児の主体的な学びのサイクルを意識したことで、遊びが展開していった様子を紹介します。


時期 5歳児 9月～11月

ねらい 友達と思いや考えを出し合いながら、共通の目的に向かって一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう


映画館を作ろう！

1学期から3歳児と4歳児のお客さんに来てもらい、お店ごっこを楽しんだことから、2学期もお店ごっこが始まりました。夏休みの経験を生かし、たくさんのお店がオープンしました。映画館もその一つです。

遊びの創出 → **遊びへの没頭** → **遊びの振り返り**

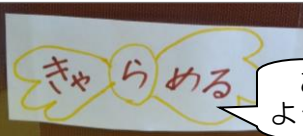


映画館だから暗くしたいな。段ボールでしっかり囲おう！




映画館には、ポップコーンと飲み物が売っているよ。ポップコーンの味を増やそう！

キャラメル味はどう？



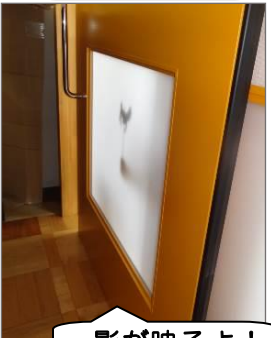
お客さんに分かるように書いたよ。



映画館ができたので、どんな映画にするか考えたいです。

映画館の壁の一部である保育室のドアの下部は磨りガラスです。廊下からの光が入ることで、影が映ることを幼児が発見しました。

遊びの創出 → **遊びへの没頭** → **遊びの振り返り**




影が映るよ！

これ(影)を使って、劇をしたらどうかな？

いいね！


自分たちでお話を考えよう！




自分たちでお話を考えようとしても、話合いがまとまらず、なかなかうまくいきません。やっとできた影絵劇を隣のクラスの友達に上演しました。

面白くない！


お話もわかりにくいし、声も全然聞こえなかった！



3歳児さんにとってわかりやすい話ってなんだろう？




3歳児さんも知っているお話はどうか。




童話「三びきのやぎのらがらどん」に決定！

『三びきのやぎのからがらどん』の本を見ながらペープサート作りをしました。


遊びの創出 → **遊びへの没頭** → **遊びの振り返り**




中くらいのやぎを作ろう。



大きいやぎは二つ要るよ。
普通の時と怒っている時があるもん。
立たせたらどう？
戦っているときは、けむりも出ているよ。



次は(影絵劇を)やってみたいです。




演じる側：どう？(ペープサートを示す)

中の幼児：(色が)薄い。ぺたっと、くっつけると濃くなった！

出来上がったペープサートを使って影絵劇に挑戦！

遊びの創出 → **遊びへの没頭**



A児とB児、指導者が影絵劇をしました。

中の幼児：マイクだったら聞こえる。

B児：スピーカー、マイク！

中の幼児：聞こえた！

B児：聞こえますか？

指導者：中で観ていた人に(感想を)聞いてみよう！

中の幼児：(声が)聞こえない。

指導者：どうしよう。

観る側と演じる側に分かれて声の大きさや動きについて確認をしたり、修正したりしました。

遊びの振り返り

実際の幼児の影絵



3歳児さんに喜んでもらえてうれしかった！

映画館に3歳児や4歳児を招待したいという目的をもち、試行錯誤した経験が幼児の学びとなっています。遊びを振り返り、次の遊びを創出するような幼児の主体的な学びのサイクルを通して、子どものやる気と自信を育て、自ら学びを進める一歩となります。

幼児教育で育まれた力が小学校につながり、小学校でも引き続き、学ぶ力の向上を図ります。

小学校へGO!

もっと知りたい!

— 幼児の遊び・
児童の学び —



ジョイントブック

幼児教育



絵本「ジオジオのかんむり」を
読んでもらって、絵を描いたよ





資料編

1 もっと知りたい！

「一幼児の遊び・児童の学び—ジョイントブック」

- (1) 知ろう！ 園児・児童の生活 A小学校区(幼稚園) . . . 1
- (2) 知ろう！ 園児・児童の生活 B小学校区(認定こども園) . . . 3
- (3) 幼児教育と小学校教育における共通の取組 . . . 5

園児と児童の1日の生活の流れや日直、掃除や給食の様子が分かります。

見開き1ページで示しているのので、幼児教育と小学校教育とを比べながら見るすることができます。



2 幼小接続期カリキュラム作成のための質問紙例

第2章「さあ、幼小連携を始めよう！」では、質問紙を活用した幼小接続期カリキュラム作成の流れを示しました。



3 5歳児 保育指導案1・2

第3章「実践事例」(2)5歳児Ⅲ期(9月～10月)で紹介した事例の保育指導案です。

保育指導案には、指導者のねらいや願いが明記されています。

紹介した事例の他にも、様々な遊びが展開していました！



お店屋さんごっこから派生し、作成した背面掲示です。幼児の発想で自分たちの町が完成しました！



1 まずは、互いの保育・教育を知ろう！（5月中旬）

5歳児

(1) 知ろう！ 園児・児童の生活 A小学校区(幼稚園)

8時30分 登園



登園後、自分が選んだ野菜に水やりをします。自分で考えて動きます。

自由遊び

園児の発想で、お店屋さんの活動がどんどん広がります。

自分たちで食器の片付けをします。牛乳パックも広げて洗います。

11時50分 給食



給食の片付け

ありがとう。

9時40分 朝の集まり



声のものさし

3の声(声のものさし)で挨拶をしよう！

ポイント

3・4歳児さんの部屋もぼくたちがきれいにするよ。

13時10分 掃除



9時55分 外遊び



砂で〇〇山を作っているの！

ポイント

読み聞かせの本は園児が選書したものです。選んだ理由も発表します。

13時45分 帰りの集まり



14時 降園

「とんとんして、つぶしたら色がでるよ」「紫色になった！」色水遊びに没頭します。

「明日は何する？」指導者の問いかけに、「お店やさんに色をぬりたい」「ローラーを使うよ」「みんなで色を決めよう！」明日の登園への期待をもって帰ります。



第1学年



8時頃 登校



机の整理をしたら、水やりに行ってきます。

転がしドッジボールでは、キャッチしたらすぐに投げることを意識します。

3校時(10:40~11:25) 体育



8時20分 朝の会



ポイント

毎日、当番が「3の声(声のものさし)」を意識し、スピーチをします。

ジャクソン先生と英語で挨拶できたよ!

4校時(11:30~12:15) 生活



1校時(8:45~9:30) 国語



国語科の音読に算数科で活用している「かぞえうた」を取り入れます。

給食(12:15~12:55)



身支度を調べ、配膳を自分たちでします。



黒板の字をノートに書くことができたよ。

午前中は、曜日によって「てんびんタイム(学力補充の時間)」や「健やかタイム(15分運動)」が入ります。

2校時(9:35~10:20) 国語



ひらがなの言葉集めでは、自分で考え、ペアで交流し、その後、全体で発表しました。

昼休み、掃除後13時45分から14時まで昼学習を行います。その後、5校時、帰りの会を終えて、15時頃下校します。





5歳児

(2) 知ろう！ 園児・児童の生活 B小学校区(認定こども園)



8時30分 登園



かばんの片付け、帳面へのシール貼り等は自分で行います。

みんなの竹をつなげよう！

11時 制作活動



9時10分 げんきタイム



リズム体操とマラソンをします。3歳児は4、5歳児を見て学びます。

給食の配膳は自分たちでするよ。

11時45分 給食



9時25分 朝の会



当番が司会をします。1日の流れの見通しをもちます。

12時45分 掃除 外遊び



9時45分 外遊び



遊びを通して学びます。遊びの後は、片付けを自分たちでします。

★プリントをどうぞ。★
★ありがとう。★

13時40分 帰りの会



14時 降園

保育を必要とする子どもは、14時降園後もこども園で過ごします。ゆるやかな時間の流れの中で学びを育みます。



第1学年



8時頃 登校

もう一人でできるよ!

リレー記録会に向けて、グループで協力しながらバトンをつなぎます。

2校時(9:50~10:35)体育科



8時15分 朝の会



当番の司会で朝の会を始めます。元気よく歌を歌い、1日が始まります。

中休み(10:35~10:50)



本を借ります。お願いします。

8時30分 10分間運動



ポイント

小学校では、10分間運動に取り組んでいます!

3校時(10:50~11:35)算数



8時45分 朝学習

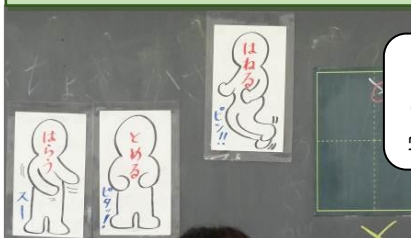


鉛筆の持ち方に気をつけて練習します。

4校時(11:40~12:25)書写



1校時(9:00~9:45)国語科



ポイント

はねる、とめる、はらうに気をつけて文字の学習をします。

給食(12:25~13:05)



給食後は、昼休み、掃除、5校時の学習をします。帰りの会を終えて15時頃下校します。



(3) 幼児教育と小学校教育における共通の取組

★自分のことは自分で★

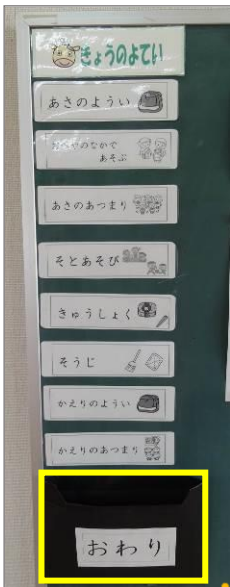


3歳児から自分のことは自分ですることを身に付けていきます。
繰り返し、丁寧に幼児の育ちを見届けていきます。

はじめはうまくできなくても、過程を見守ります。自分でできたことを、うんと褒めることで、次もがんばろうという気持ちを高めます。



★見通しをもつ★



1日の流れを示すことで、見通しをもって過ごすことができるようになります。

予定が終わると、「おわり」の箱にカードを入れていき、視覚的に時間の流れを示します。

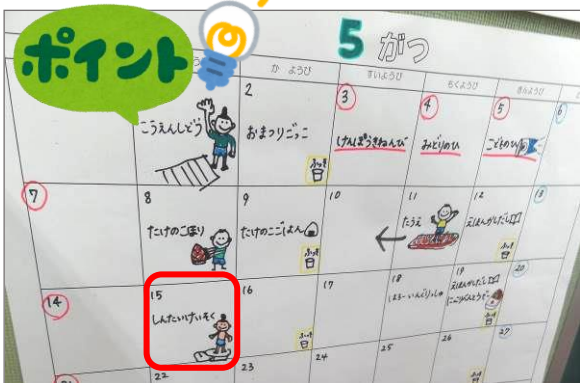


見通しをもちにくい幼児には、個別に流れを示します。



ポイント

時計はまだ読めませんが、「6まで」等、幼児の実態に即して意識できるようにします。



月の予定を、絵とひらがなで幼児に必ず示します。幼児は毎日、予定表を確認し、園の行事等を心待ちにします。



学びのエピソード[今日は何月何日?]

月曜日のため、月日カードがめくられていないことに気付いた園児。

A児「今日何日？」

B児「いち、にの日(12日)ちがう？」

C児「あ！分かった。今、身体測定終わったから、今日はいち、この日(15日)やで」

B児「ほんまや！身体測定の絵が描いてあるわ」

A児「これ、じゅうごにちって読むんやで」

★ 日直(当番) ★



朝の会(集まり)や帰りの会(集まり)の司会やお休み調べ、給食の配膳台拭きなどの仕事をします。



日直の仕事を通して、全体の場で話す経験を積みます。また、相手や場面に応じて話すことができるように声をかけます。

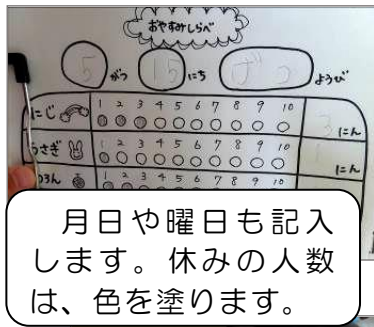


学びのエピソード(お休みを調べます)

5歳児になると、自分のクラスだけでなく、全てのクラスの休みを調べます。調理室と職員室へ報告するのも日直の仕事です。



おはようございます。今日の〇〇組のお休みは何人ですか。



月日や曜日も記入します。休みの人数は、色を塗ります。



失礼します。今日のお休みをお知らせします。うさぎ組は一人です。ゆるん組は二人です。いちご組も二人です。

★ 掃除 ★



ほうきの使い方、ぞうきんがけの方法は指導者と共に掃除をする中で学びます。

ほうきの持ち方はどうだった？ 〇〇さん上手だね。



5歳児は、3歳児、4歳児の教室も掃除します。5歳児が互いに声をかけ合って掃除する姿が手本となり、自然と身に付いていきます。



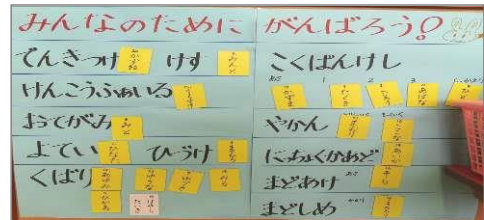
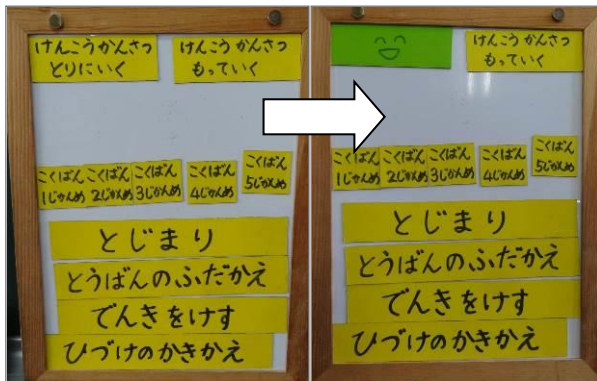
グループで協力して掃除をすることも学びます。掃除場所を移動する際は、「そろそろ行きましょうか」と声をかけます。役割を交代する際は、「ほうきが終わりました。ぞうきんさん、お願いします。」と友達へ伝えます。



★ 日直 ★

小学生になると、日直の内容もぐっと増えます。
仕事が終わると磁石をひっくり返し、確認します。

日直以外にもクラス全体の仕事を全員が分担して責任をもってやり遂げることを目指します。



小学校生活に慣れてくると、学級を楽しくしたり、みんなのためになったりする仕事を考え、係活動を行います。子どもたちの創意工夫する力を大切に、支援します。



★ 掃除・給食 ★



給食の準備は初めての経験です。役割は細かく決められています。慣れていない4月は6年生が手伝いに来ることもあります。

幼児期に学んだ掃除の方法を生かして、班ごとに掃除をします。
掃除当番表には、場所だけ明記しています。役割分担を自分たちでします。

身支度、給食の準備をきちんとすることを園で学びました。





★ グループ活動 ★



みんなで
作ると長い
竹ができる
ね。

制作活動をグループで行います。制作道具の準備も協力します。



泥をここ
に塗って！

まかせて。

バターみ
たい。



遊びの中で、自然と同じ目的を持った仲間が集まります。幼児の遊びをつなげることも指導者の大切な役割です。

★ 全体交流 ★



自由遊びの中で、新しく発見したことや楽しかったことを発表するだけでなく、困ったことについても全体で話し合います。

お店屋さんを3歳児さんと呼んだときに、誰がどのコーナーの人が、分からなくて、3歳児さんが、困っていたよ。

アクセサリ屋さんみたいな頭につける冠を他のお店もつけたらどう？



全体交流や振り返りでは、指導者がねらいに即して、意図的に幼児の活動や思いを取り上げます。

また、幼児が話し合ったことを大切に、次の活動が広がったり深まったりするようにつなげていきます。

★ 振り返り ★



1日の活動を振り返り、発表します。指先までまっすぐピンと挙手します。



映画館が大成功しました。

マイクを使ったので、よく聞こえました。

次は、自分たちが考えたお話をしてみたいです。





小学校教育

★ ペア・グループ活動 ★



学習場面において、ペアやグループなど少人数で話し合う機会を意図的に設けることで、互いの考えを伝え合います。



声の大きさを意識できるように声のものさしを掲示しています。
授業の中で意識していきます。

★ 全体交流 ★



全体での発表では、みんなに伝わる声で発表するだけでなく、どのように発表するとわかりやすいのか、授業の中で考えたり、練習したりして、全員がめあてを達成できるようにします。

★ 振り返り ★

小学校教育では、授業のはじめにめあてを示し、そのめあてに即して振り返ります。入門期では、初めは発表することから始め、次第に文字で書くことへつなげます。書くことで、それまでの学びを振り返ることもできます。

振り返りの三つの観点を示すことで、振り返りを書くことができました。

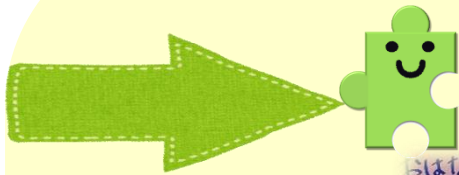


【振り返りの三つの観点】

- ① うまくいったこと
- ② 困っていること
- ③ もっとやってみたいこと

やったあそび	○うまくいったこと △こまっていること ①もっとやってみたいこと
ぶらり くわん たーの こた	○ぶらりをしょうす"にくれました。 △ちよつはげ"るのがあ"ずがかったね ①あつしょうす"にすけた"かたです。





小学校教育

はなし
「せかいいちのぼうし」をよんで
こんなぼうしがあったら
いいな! すてきなぼうし



幼小接続期カリキュラム作成のための質問紙例

幼小接続期カリキュラムの作成の手がかりにするために、校園の目指す子どもの姿を把握したいと思います。

- 1 下記は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の一例を書き出したものです。子どもの姿を踏まえて小学校以降の成長を意識したときに、幼児教育や小学校教育においてより大切にしたいこと、また、深めたいとお考えのものはどのようなことと考えておられますか。次の項目から当てはまる数字を○で囲んでください（複数あっても結構です）。

(1)	いろいろな活動の中で、十分に体を動かす
(2)	様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む
(3)	見通しをもって行動する
(4)	自分でできることは自分でする
(5)	いろいろな活動をやり遂げようとする
(6)	数量や図形、簡単な標識や文字などに関心をもつ
(7)	文字などを読んだり、書いたりする
(8)	絵本や物語などに親しむ
(9)	友達や教師の話を最後まで聞く
(10)	自分の考えなどを言葉で伝え合う
(11)	友達と共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりする
(12)	身近な動植物に親しみ、大切にす
(13)	身近な事象に興味をもち、考えたり、試したりして工夫する
(14)	地域の方と触れ合い、地域に親しみをもつ
(15)	情報を伝え合ったり、活用したりする
(16)	いろいろな素材に親しみ、表現する
(17)	きまりの大切さに気づき、守ろうとする
(18)	その他 ()

- 2 設問1でお答えいただいた姿を育むために、幼児教育および小学校教育においてどのような指導の工夫や手立てが考えられるか、お書きください。

--

5 歳児 保育指導案 1

平成29年10月13日（金）

1 主題 「友達と思いや気持ちを伝え合いながら、お店ごっこを楽しもう」

2 目指す子どもの姿に対する幼児の姿

きりん組は明るく元気いっぱいの子が多く、クラスの雰囲気は楽しくにぎやかである。1学期から友達に声をかけて一緒に遊ぶことを楽しむ様子が見られ、思いを通わせて砂遊びをしたり、色水作りや泥だんご作りに夢中になったりする姿が見られた。作って遊ぶことが好きな子が多く、室内では作ったアクセサリやおもちゃを作って4歳児や3歳児のお客さんに買ってもらったり、輪投げやボウリングコーナーを作って遊んでもらったりして、お店ごっこを楽しんできた。その中で遊びの振り返りの時間を多くもち、友達と様々なアイデアを出し合って遊ぶ経験をしてきている。

話し合いでは、作った物やできたことを紹介することで遊びのイメージを共有したり、困ったことをみんなで考えたりすることを大切にしている。振り返りを行うことで、「明日は、～をしよう！」「～の遊びをしたいから、家から段ボールもってきたよ」等、遊びをつなげたり、意欲をもって登園したりする姿がある。話し合いの中でどんどん発言できる子と、全体の中では発言しにくい子がいるが、一人ひとりの思いや考えが遊びに生かされ、さらに遊びが楽しみになるように進めている。

9月末に運動会を経験し、共通の目標に向かって一生懸命取り組むことや友達と力を合わせることの大切さを感じた子ども達は、友達とのつながりがさらに深まり、誘い合って好きな遊びを楽しむ姿が見られている。また、運動会で取り組んだりレーを繰り返して楽しんだり、縄跳びや固定遊具などの運動遊びに意欲的に取り組んだりする姿も見られるようになってきている。また、クラスとしてのまとまりが見られるようになり、隣のクラスのしている活動や遊びを意識し、刺激を受けながら様々な活動や遊びに取り組む様子も見られている。

一方で、登園時や活動の切り替わり時に気持ちが崩れたり、不安になったりして教師の関わりを求める子もいる。友達のしている遊びに入りにくかったり、自分の思いをうまく相手に伝えられなかったりする様子も見られ、教師が気持ちを受け止めつつ友達との関わりをもつことができるよう支援を続けている。

3 活動によせて

1学期から4歳児と3歳児のお客さんに来てもらい、お店ごっこを楽しんだことから、2学期も自分たちの好きなお店を作って遊んでいる。夏休みの経験を生かし、アイスクリーム、マカロン、キャンディーなどのスイーツ屋さんやたこ焼き屋さん、コンビニエンスストア、映画館を作った。1学期は商品を各々が自由に製作し、それらを売るスタイルであったが、「何味がいいですか?」「イチゴ味もありますよ」等、お客さんの好みを尋ねたり、やりとりを楽しんだりする等、サービス対応が必要なお店へと発展した。また、1学期の学びを生かす姿が見られる。

たこ焼き屋さんでは、より本物らしく美味しそうにしたいという思いをもち、ソース・マヨネーズ・鰹節・青海苔などを作り、たこ焼きを作る過程を見せる店へと発展した。さらに、机と椅子を用意して食べられるコーナーを作り、お客さんが楽しむことができるよう工夫している。

コンビニエンスストアは、どの店舗も同じようなレイアウトであったり、商品が売ったりしているため、友達と共通のイメージや目的をもちやすい。ジュース・パン・おにぎり・お弁当などの商品を

作る際は、互いの考えを言葉で伝え合い、目的をもって制作する姿がある。1学期のお店ごっこの経験を生かし、棚の脚は牛乳パックを重ねて同じ高さにすることで安定を図ったり、より本物に近い商品を作成するために、様々な素材を用い工夫したりする姿も見られている。

映画館で映画を見る経験をした子も多く、「映画館作ろう!」と盛り上がった。暗くしたいという思いがあったので、保育室の隅に教師と一緒に段ボールで壁や屋根を作った。映画館の壁の一部である保育室のドアの下部は磨りガラスで、廊下からの光が入ることで、影が映ることを発見し、影絵のように遊び始めた。段ボールを様々な形に切り、影の映り方を楽しみ、友達とストーリーを考え、イメージを膨らませている。

4 教師の願い

友達と一緒にイメージや目的を共有し、アイデアを言葉で伝え合うことで遊びが盛り上がり、主体的に進めていく様子が見られている。しかし、たくさんのコーナーを転々として一つのことじつくりかかわらず、友達や教師に任せっきりになる子も見られる。

いろいろなお店ごっこを進める中でそれぞれに自分のしたい遊びを見つけ、友達のしていることに刺激を受けながら共通のイメージをもって遊んでほしい。その中で友達と思いを伝え合ったり考えを出し合ったりして、一緒に遊びを進めていくことの楽しさを感じてほしいと願っている。

これらのことから、全体での遊びの振り返りを充実させるとともに、子どもの思いに寄り添いながら、友達と思いを伝え合いながら遊びを進めることができるよう支援していきたいと考えている。

遊びの振り返りの話し合いでは、それぞれの遊びのコーナーがどのようになっているのかを知り、共通理解を図りながらクラスみんなで楽しむ雰囲気を大切にしていきたい。また、友達の工夫した点を認めたり、困っていることなどを一緒に考えたりして共有し、遊びの続きに期待をもつことができるようにしたいと考えている。

今日の活動の展開

ねらい		内容		評価の観点	
<ul style="list-style-type: none"> 友達と思いや考えを出し合いながら、共通の目的に向かって一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう。 いろいろな素材に触れながら、自分のイメージした物や遊びに必要な物を作る楽しさを味わう。 		<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを話したり、友達の考えを取り入れたりしながら、協力して遊びを進める。 いろいろな素材からイメージに合う物を選んだり、作り方を工夫したりして、遊びに必要な物を作る。 		<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が主体的に遊びを進めていくことができる環境構成や教師の援助ができていたか。 友達とイメージを共有できるような援助や働きかけができていたか。 イメージを膨らませて遊ぶことができるような環境構成ができていたか。 	
時刻	生活の流れ	教師の援助	・予想される子どもの活動		○環境構成 *教師の援助
8:30	登園する。 挨拶をする。	*一人ひとりに笑顔で挨拶をして迎え、安心して一日がスタートできるようにする。	<p style="text-align: center;">廊下</p>		<p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; display: inline-block; padding: 2px 10px;">A スイーツ屋さん</p>
9:00	所持品の始末をする。 体操をする。 ジョギングをする。 好きな遊びをする。 お店ごっこ A スイーツ屋さん B 映画館屋さん C コンビニ屋さん D たこ焼き屋さん	*所持品の始末は自分でする様子を見守り、出し忘れがないか、確認する。			<p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; display: inline-block; padding: 2px 10px;">B 映画館屋さん</p>
10:10	片付けをする。 排泄・手洗い・うがいをする。 お茶を飲む。	*手洗い・うがいは丁寧にできるように声をかけたり、教師も隣で一緒にしたりして促していく。	<p style="text-align: center;">C コンビニ屋さん</p> <ul style="list-style-type: none"> コンビニに必要な物を作る。 店員になり、お客さんとのやりとりをする。 ○遊びに必要な材料や用具（空き箱、カップ、毛糸、画用紙、牛乳パック、段ボールなど）を準備しておく。 *友達とイメージを伝え合ったり、共有したりして遊ぶ姿を見守り、必要に応じてアイデアを出したり、教師も手伝ったりする。 *遊びの中で思いがぶつかったりすれ違ったりするときは、一人ひとりの思いを受け止め、必要に応じて友達の思いに気付くことができるように働きかけていく。 		<p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; display: inline-block; padding: 2px 10px;">C コンビニ屋さん</p>
10:40	朝の集まりをする。 ・歌を歌う。 ・日付、出席を確認する。 ・遊びについての話し合いをする。	*出席を確認し、欠席の友達を心配したり、思いやったりできるようにする。 *遊びの振り返りの時間を持ち、できた物や工夫したことを紹介したり、困っていることをみんなで考えたりして、共通理解を図っていく。			<p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; display: inline-block; padding: 2px 10px;">D たこ焼き屋さん</p>
11:20	排泄・手洗い・うがいをする。 給食準備をする。		<p style="text-align: center;">D たこ焼き屋さん</p> <ul style="list-style-type: none"> たこ焼き屋さんに必要な物を作る。 店員になり、お客さんとやりとりをする。 ○お店に必要な材料や用具を分類・整理し、使いやすいように、子どもと一緒に準備していく。 *お店の人になりきってお客さんとやりとりする様子を見守り、必要に応じて言葉を補ったり、アドバイスしたりする。 *机や椅子の配置を子どもと一緒に考え、お客さんの様子を時々確認できるように言葉をかけていく。 		<p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; display: inline-block; padding: 2px 10px;">D たこ焼き屋さん</p>
11:50	給食を食べる。 片付け・歯磨きをする。 好きな遊びをする。	*教師も一緒に給食を食べながら楽しい雰囲気を作っていく。また、苦手な物でも食べてみようとする姿を認め、励ましていく。			<p style="text-align: center;">(個別配慮)</p> <p>A児：一日の流れや活動の時間などの見通しをもつことで安心して過ごせるので、必要に応じて教師が個別に関わり、確認できる時間を作っていく。また遊びや生活の中で教師を求めることがあるため、教師との会話やスキンシップを図りながら、友達のしていることを伝え、安心して活動できるように関わっていく。</p> <p>B児：友達と関わる中で、自分の思いが通らないと怒ってその場から離れることがある。気持ちが落ち着くように教師が関わり、本児の思いを受け止め、安心して戻ることができるように関わっていく。また、教師が仲立ちとなって本児のしていることを周りの友達に伝えたり、友達のしていることを伝えたりして、友達との関わりをもつことができるようにしていく。</p>
13:00	掃除をする。 降園準備をする。	*降園準備はできるだけ自分で見守り、必要に応じて声をかけ、できるように促していく。	<p style="text-align: center;">(全体を通して行う援助)</p> <ul style="list-style-type: none"> *自分のしたい遊びが見つけれない子には、思いに寄り添いながら教師と一緒に遊びを探したり、友達の遊びの様子を伝えたりして誘いかけていく。 *思いや考えの違いからトラブルになったときは、教師が仲立ちとなり、互いの思いを十分に受け止め、相手の思いに気付くことができるように伝えていく。 *片付けの際は遊んだ満足感や明日への期待がもてるような言葉をかけ、作ったものを大事に残したり、片付けたりできるようにしていく。 *遊びについての話し合いでは子ども達のいろいろなアイデアや思いを聞き、みんなで共有できるように書き留めたり、まとめたりしてクラス全体で遊びを楽しむ雰囲気を大切にしている。 		
14:00	帰りの集まりをする。 ・絵本を見る。 ・今日の遊びの話をする。 ・明日の話をする。 降園する。	*一日の振り返りの時間を持ち、「楽しかった」「明日は○○したい」という気持ちに共感し、次の遊びに繋がるようにする。			

5 歳児 保育指導案 2

平成29年10月6日（金）

1 主題 「にんじゃごっこをして遊ぼう」

2 目指す子どもの姿に対する幼児の姿

学級全体の雰囲気として穏やかな子どもが多く、困っている友達がいると優しく声をかけ、助けてあげようとする姿が多く見られる。一方で、自信をもって自分の思いを言葉にして伝える力の弱さがあり、遊びや活動を通して様々な気付きや発見をしているが、十分に共有できずにいる姿があった。また、特定の子どもの思いを押し通そうとする様子が見られ、自分の思いがあっても友達に遠慮して、十分に思いを伝えられない子がいることがうかがえた。

4月から、シリーズ絵本「わんぱくだん」の読み聞かせをきっかけに遊びや活動につなげている。9月の運動会に向け、『わんぱくだんのにんじゃごっこ』の読み聞かせをした。子どもたちは“忍者はかっこいい”というイメージをもち、運動会の取組では、「今日も忍者の修行を頑張る！」「かっこいい忍者になりたい！」と憧れの気持ちを抱きながら、積極的に取り組む姿が多く見られた。生活の場面でも「忍者みたいに早く用意を終わらせた！」と忍者になった気分での身の回りのことに進んで取り組もうとする姿があった。

また、他者に自分の思いが伝わったり受け入れられたりする喜びを味わい、思いを表出する経験を積み重ねていくことができるように、運動会の取組の中で、みんなで相談したり振り返りをしたりする機会を多くもった。「今日は～をがんばった」「もっとこうの方がいいと思った」など、思いや考えを言葉にして伝えようとする姿が多くみられるようになり、子どもたちの中で“知らせたい”“伝えたい”気持ちが高まりつつあることがうかがえた。

3 活動によせて

運動会の個人競技で使う手裏剣を一斉活動で作ったことがきっかけで、「もう一個手裏剣作ってみる！」等、友達同士で教え合ったりする姿があった。また、手裏剣を投げて楽しむ中で、「ゲームボックスを3個積んでみよう！」「穴に入ったら～点やで」と、ルールを自分達で作出し、遊びへつなげている姿があった。1学期から続いている遊びの中にも『にんじゃ弁当』と名付けたメニューが増えたり、“長い剣”“太い剣”“元気が出る虹色の剣”を制作したりと、忍者をきっかけに様々な遊びへ発展しつつある。

さらに、少人数で遊びを考えたり、作り出したりすることで、「ぼくはこうしたい」という具体的な思いをもつ子もでてきた。子ども同士の思いがぶつかる場面が見られるようになってきたが、自分と相手の思いの違いに気付くことができるよい機会であると捉え、日々の子どもの葛藤を大事にしながら互いの思いを伝え合えるような環境を設定したり、思いをつなげる声かけをしたりしながら、遊びを進めているところである。

『忍者』という普段の生活とはかけ離れた世界観ではあるが、子どもたちにとって自由な発想が生まれやすい活動であると考え。それぞれのイメージする忍者から“こんなのがあったらおもしろそう”と思いを膨らませ、自由に表現することを楽しんでほしいと願っている。思いや考え、表現の方法など、同じ遊びをしていてもそれぞれに違いがある。その違いがおもしろい、それぞれによさがあるということを保育者自身が大切に、様々な発想を認める言葉かけをしていくことで、互いを認め

合い、受け入れられる雰囲気づくりをしていきたい。また、自信がなく、失敗や間違えることを恐れて行動することに躊躇する姿も多いので、一人ひとりの思いに寄り添い、誰もが安心して、イメージを広げる楽しさ、形にしていくおもしろさを存分に味わえるよう関わっていききたい。

4 教師の願い

少人数での遊びは、互いの思いや様子が伝わりやすいと考える。イメージや思いの違いからぶつかり合うことも予想されるが、子どもたちの育ちの大きなチャンスと捉え、友達同士で話し合う様子を見守ったり、必要に応じて仲立ちしたりしながら、些細なことでも伝え合い、協力できる関係づくりをしていきたい。一人ひとりのイメージを言葉で伝え合うことで、“こんな遊びにしていきたい”“こんな風にしたらどうか？”等、新たな気づきや学びが得られると考える。共通の目的に向けてみんなで相談や協力することで、一緒に遊びを創り出していく喜びを感じられるように支えていきたい。

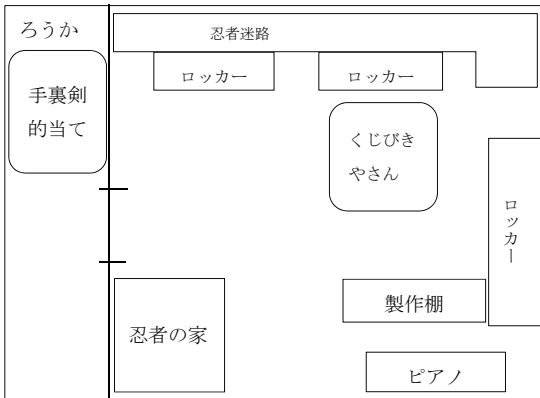
また、事前、事後の話し合いや振り返りの場をもつことが、子ども自身が自分の考えや行動を整理し、遊びのイメージや目的を明確にしながらかの遊びにつなげることができると考える。そのため、話す内容や何をねらいとするかを保育者自身が意識し、話す場のもち方や方法を工夫していきたい。発表に対して思ったことや感じたこと、知りたいことなどを交流し合えるよう、保育者も遊びの仲間となって話し合いに参加しながら、思いや考えが出しやすい雰囲気づくりを心掛けていく。

さらに、一人ひとりが“～したい”という思いをもって、やりたい遊びに向かうことができるようにしたい。そのために、子どもが今どんなことに興味をもっているのか、頑張っているのかを丁寧に見取り、必要な素材や道具、場を整えていくことを心がけたい。また、保育者も共に仲間となって遊び、楽しむことで、子どもの思いやイメージをより身近で感じられるように努めたい。

そのために、画用紙や広告、空き箱やカップなど、身近な素材を準備しておくことで、子どもたちが自分なりにイメージを広げ、思いの実現へ向けて試行錯誤し、工夫して遊びに取り入れられるようにしたい。また、大きめの段ボールなど、扱いにくい素材も用意することで、抵抗感が遊びの工夫の幅を広げ、友達と協力して遊びに使おうとするきっかけになることを期待している。

今日の活動の展開

本時のねらい	<p>○自分の思いや考えを友達に伝えたり、相手の思いを聞いたりして、一緒に遊びを進めることを楽しむ。</p>	評価の観点	<p>・自分のしたい遊びを楽しむ中で、思いや考えを友達に伝えようとする姿が見られたか。また、友達の思いに気づき、一緒に遊びを進めようとする姿が見られたか。 ・一人ひとりが安心して自分のしたい遊びを楽しんだり、イメージを広げ表現したりできるような材料の準備や環境構成ができていたか。また、それぞれの思いや考えを受け止め、互いに思いを言葉にし、伝えられるような援助があったか。</p>	
予想される幼児の活動および保育者の援助		<p>・予想される幼児の活動 △環境構成 ※保育者の援助</p>		
7:00 8:30	<p>○順次登園する（長時間保育）。 ○登園する。 ・保育者や友達と挨拶を交わす。 ・持ち物の始末をする。 ・当番活動（お休み調べ）をする。 ・栽培物の水やりをする。 ※一人ひとりを笑顔で迎え、気持ちよく一日がスタートできるようにする。 ※荷物の始末をする姿を認め、自信や意欲につなげる。 ○戸外で好きな遊びをする（竹馬、固定遊具、縄跳び、鬼ごっこ等）。</p>	<p><忍者になって遊ぼう> ・頭巾や服など、身につけるものを作る。 ・手裏剣や剣、遊びに必要なものを作る。 △遊びの様子を見ながら、子どものイメージの実現に必要な素材を用意しておく。 ※“こんな忍者になりたい！”という子どものイメージを大切にしながら、実現できるように一緒に考えたり、アイデアを出したりしていく。 ※なりきって遊ぶ楽しさに共感し、“こんなものがあったらおもしろそう”と次につながるようなイメージをもてるような関わりをする。</p>	<p><忍者迷路を作ろう> ・段ボールをつなげて迷路を作る。 ・迷路の中に入って遊ぶ。 △大小様々な大きさの段ボールを用意しておくことで、自分で組み合わせを考えたり、イメージを広げて遊びを進めたりしていくようにする。 ※どのようにつないでいくかを子ども同士で相談したり協力したりする姿を見守る。 ※「どうやってつなげていく?」「この道おもしろいね」と投げかけたり、認めたりすることで、子どもの思いや言葉を引き出せるようにする。また、様々なアイデアにふれ、イメージが形になっていくおもしろさを共有し、友達と一緒に遊びを進めることを楽しめるようにする。</p>	<p><くじ引きやさんをしよう> ・友達とやりとりをして遊ぶ。 ・賞品を考えたり、作ったりする。 ※アイデアを出し合い、ルールを共有し、友達と一緒に遊びを進めることを楽しめるようにする。 ※保育者もお客さんとなって遊びに加わって楽しみながら言葉を交わし、子ども達がやりとりを楽しめるようにしていく。</p>
9:00 9:45	<p>○体操・マラソンをする。 ※保育者も率先して体を動かして楽しい雰囲気づくりをし、体を動かす心地よさを味わえるようにする。 ※継続して運動遊びに取り組む時間を確保する。 ○手洗い、うがいをし、水分補給をする。</p>	<p><忍者の家を作ろう> ・忍者の家を作ったり、友達と一緒に入ったりして遊ぶ。 ・段ボールに色を塗ったり、飾りをつけたりする。 △数人が入れる空間を作ること、友達存在を近くに感じられるようにする。また、囲われた空間の中で、安心して互いのイメージが伝え合えるようにしていく。 ※思いや考えを言葉にして伝え合えるよう支えながら、自分の思いが受け入れられた喜びが味わえるようにする。また、友達と思いが違った時には、遠慮せずに気持ちを伝え合えるよう、必要に応じて「○○くんはどうしたいの?」と思いを引き出し、互いの思いを大切にしながら話し合えるようかかわっていく。 ※“こうしたい”という思いをもって遊びをすすめる姿を見守ったり、認めたりし、思いの実現を支えることで、満足感や自信につながるようにする。</p>	<p><手裏剣的当てをしよう> ・的をねらって手裏剣を投げる。 ・距離や高さを変えて遊ぶ。 △ゲームボックスや巧技台を用意しておき、“こうしたらおもしろそう”という思いや考えが試せるようにする。 ※自分達でルールをつくったり、遊びを工夫したりする姿を認めていく。また、保育者も仲間となって遊びを楽しむ中で、アイデアを提供したり、イメージを引き出したりすることで、“次はこうしてみよう”とさらに遊びが発展していくようかかわっていく。 ※子どもの遊びを見守り、必要に応じて遊びのルールを確認したり仲立ちしたりし、みんなが楽しく遊べる方法を考えていけるようにする。</p>	<p><全体を通しての配慮> △自分達でしたい遊びを選び、遊びの環境を準備できるよう、道具や用具を取り出しやすい所に置いておく。 △子ども同士で考えて遊びの場を設定できるよう、安全面に配慮し、見守りながら、互いの遊びの様子や声が伝わる距離感を保育者の中で意識しておく。 ※保育者自身が忍者になって遊ぶことを率先して楽しみ、“忍者”の世界観の中で、一人ひとりが作ったり、なりきったりして、思いを表現する楽しさを味わえるようにしていく。 ※思いや考えの違いでぶつかり合う姿もあるが、子ども同士で思いを伝え合ったり、協力したりする姿を見守りながら、必要に応じて仲立ちし、安心して思いを表現できるようにする。また、しっかりと自分の思いを伝えられるよう丁寧に関わっていく。 ※活動前に今日はどんな遊びをしたいと考えているのかを聞いておくことで、子どもが目的をもったり、活動を広げたりできるようにしていく。また、振り返りの時間には、気づきや発見、遊びを通して感じたことや考えたことなど、話をしやすい雰囲気づくりをする。</p>
10:10 11:30	<p>○朝の会をする。 ○歌を歌う。 ○挨拶をする。 ○今日の活動について話を聞く。 ※休みの友達に思いを寄せたり、クラス全員が揃ったことを喜んだりできるような温かい雰囲気づくりをしていく。 ※子どもたちが一日の流れがわかり、見通しや期待をもって過ごせるようにする。</p>	<p>○絵本を見る。 ○太鼓をする。 ○絵本を借りる。</p>	<p>○給食の準備をする。 ○給食を食べる。 ※楽しい雰囲気の中で食事ができるようにする。 ※食事の時のマナーを意識できるよう言葉をかける。 ※食後の挨拶の時間を知らせ、時間の見通しをもって食べられるようにする。</p>	<p>○絵本を借りる。 ○給食の準備をする。 ○給食を食べる。 ※楽しい雰囲気の中で食事ができるようにする。 ※食事の時のマナーを意識できるよう言葉をかける。 ※食後の挨拶の時間を知らせ、時間の見通しをもって食べられるようにする。</p>
12:15 12:45	<p>○歯磨きをする。 ○食後の挨拶をする。 ○片付けをする。 ○掃除をする。 ◎「にんじゃごっこをして遊ぼう」（右記参照） →</p>	<p><環境図> 保育室</p>	<p>ろうか</p>	<p>（環境図） 保育室</p>
13:45 14:00 16:30 19:00	<p>○排泄を済ませ、手洗い、うがいをする。 ○降園準備をする（短時部）。 ○帰りの会をする。 ※一日の振り返りをしたり、明日への期待がもてるように話をしたりする。</p>	<p>○降園する（短時部）。 ○おやつを食べる。○帰りの支度をする。○好きな遊びをする。（長時部）</p>	<p>○降園する（短時部）。 ○おやつを食べる。○帰りの支度をする。○好きな遊びをする。（長時部）</p>	<p>○降園する（短時部）。 ○おやつを食べる。○帰りの支度をする。○好きな遊びをする。（長時部）</p>
	<p>○戸外や保育室で好きな遊びをする（長時間保育）。 ※保護者に子どもの様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりして、共通理解をする中で同じ思いで子どもに関わっていけるようにする。</p>	<p>○降園完了（延長保育）。</p>	<p>○降園完了（延長保育）。</p>	<p>○降園完了（延長保育）。</p>





～「幼小連携に関する研究」によせて～

本ジョイントブックで提案されている幼小接続期カリキュラムは、その作成にあたり、接続期において地域で育みたい子どもの姿を幼・小で共有するところから始まる。それぞれの校園における子どもの今の育ちを振り返り、そこから見えてくる地域共通の課題をまず明らかにして、その課題に取り組むために地域として接続期に特に力を入れて育てていきたい側面を協議する。そしてそれを接続の軸とし、幼児期の終わりまでに育てたい姿、小学校第1学年の終わりまでに育てたい姿、を幼・小がそれぞれ明らかにすることで、接続したい教育内容を明確化していく。保育者・教師が、今、目の前にいる子どもの姿から地域の教育課題に迫ろうとする取組のなかに接続を位置づけている点に大きな特徴があり、当事者性の高さ、並びに地域のニーズへの応答性の高さからまず評価されよう。地域の課題を議論する際には、質問紙を通じて各校園の教職員から広く意見を収集しそれを代表者が集約する形をとっており、直接の担当者のみならず、園・学校をあげてこの取組が意識されるよう計画されている点でも注目される。

本カリキュラムのもう一つの大きな特徴は、5歳児の1年間をアプローチ期、小学校第1学年の1年間をスタート期とし、これらをあわせた2年間を接続期と位置づけて、この期間を通じて連続する一つの流れとしてカリキュラムを表現している点にある。「幼児期の終わりまでに育てたい姿」を接点としながら、5歳児の1年間にその実現に向けてどのような取組を行っていくのか、それを受けて小学校第1学年の1年間にどのような取組を積み重ねて次の第2学年につないでいくのか、その過程が連続して示されることにより、幼小それぞれの教育方法の独自性を脅かすことなく接続をとらえることができ、かつ、ねらいやその実現のための取組がどうつながっているか、双方から確認することが可能になる。そうすることで、子どもの姿や実践のあり方が共有され、幼・小それぞれが自らの実践を接続の観点から捉え直し、互いの実践から学び合うことが促される。

この接続カリキュラムを基に、言葉による伝え合いを軸にして、主体的・対話的で深い学びの視点を生かして取り組まれた今回の実践を通して、カリキュラムのこのような有効性を確かめることができた。このカリキュラムを土台に幼・小が語り合いを重ねることで、保育・教育の改善が図られカリキュラムの実行性がさらに高まっていくことについても確かな手応えが得られている。ジョイントブックにおいては、実践の過程でさまざまに捉えられた子ども達の豊かな学びの姿も事例として数多くあげられており、接続期の子どもの姿や学びの展開を理解しその改善に取り組むための手がかりが豊富に提供されている。

今回の幼稚園教育要領等、小学校学習指導要領の改訂により、幼・小接続をめざす取組は今後一層加速されていくことだろう。本ジョイントブックはその先頭に立って行われた取組であり、これを礎にすることで幼小接続に関する教育・研究がさらなる発展へ向かっていくことが期待される。ジョイントブックの作成にあたった「幼小連携に関する研究」にご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

平成30年2月



トータルアドバイザー

国立大学法人滋賀大学教育学部教授

菅 眞佐子






 ～平成29年度滋賀県総合教育センター
 「幼小連携に関する研究」のメンバー～
 

トータルアドバイザー

国立大学法人滋賀大学教育学部教授 菅 眞佐子

専門委員

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課指導主事 北原 陽子

日野町子ども支援課課長補佐 幸野 雅恵

守山市保育幼稚園課幼保指導担当課長 河口智津子

研究委員

日野町立日野幼稚園教諭 位田 慎也

日野町立日野小学校教諭 森 陽子

守山市立玉津こども園保育教諭 大場 直也

守山市立玉津小学校教諭 寺井真理子

研究協力校園

日野町立日野幼稚園

日野町立日野小学校

守山市立玉津こども園

守山市立玉津小学校

滋賀県総合教育センター

村地 和代

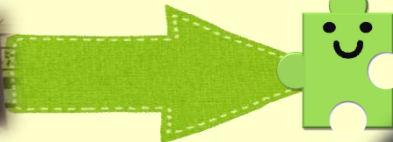


～参考文献と資料～

- ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」平成29年(2017年)3月、内閣府、文部科学省、厚生労働省
- ・「小学校学習指導要領」、平成29年(2017年)3月、文部科学省
- ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針中央説明会資料」平成29年(2017年)7月、内閣府、文部科学省、厚生労働省
- ・「初等教育資料4月号～8月号」、東洋館出版、平成29年(2017年)4月～8月
- ・「学びの基礎指導の手引き改訂版」、平成29年(2017年)3月、滋賀県教育委員会
- ・「滋賀県幼児教育推進の指針」、平成17年(2005年)3月、滋賀県教育委員会
- ・「学びの芽生え育み事業 取組のまとめ 平成22年度～平成26年度」、平成23年(2011年)3月～平成27年(2015年)3月、滋賀県教育委員会
- ・「学びに向かう力育み事業 取組のまとめ 平成27年度～平成28年度」、平成28年(2016年)3月～平成29年(2017年)3月、滋賀県教育委員会
- ・「幼児教育の成果を小学校教育へ」、平成28年(2016年)3月改訂、栃木県幼児教育センター
- ・「こうすれぱうまくいく！ 幼稚園・保育所と小学校の連携ポイント」、ぎょうせい、平成21年(2009年)12月、篠原孝子／田村学
- ・「育ちと学びをつなげる幼小連携－小学校教頭が幼稚園へとび込んだ2年間－」、チャイルド本社、平成22年(2010年)6月、木下光二
- ・「学びと発達の連続性－幼小接続の課題と展望」、チャイルド本社、平成18年(2006年)6月、社団法人全国幼児教育研究協会

つくろう あそぼう たのしもう

えいがかみ



幼児教育



小学校教育